

首都圏の MSM における HIV 感染対策の企画と実施

研究代表者：市川誠一(名古屋市立大学看護学部 教授)

研究協力者：荒木順子、佐久間久弘、木南拓也(公益財団法人エイズ予防財団/特定非営利活動法人 akta)、
岩橋恒太(名古屋市立大学看護学部/特定非営利活動法人 akta)、大島岳、柴田恵、阿部甚兵(特定非営利活動法人 akta)、生島嗣、桜井啓介、加藤悠二(特定非営利活動法人ふれいす東京)、
高野操(公益財団法人エイズ予防財団/独立行政法人国立国際医療研究センターエイズ治療研究開発センター)、金子典代、塩野徳史(名古屋市立大学看護学部)

研究要旨

首都圏地域では 2006 年から 2010 年度にかけ、厚生労働省エイズ対策研究事業「エイズ予防のための戦略研究」課題 1 (以下、戦略研究)において、首都圏に居住する男性同性愛者等(以下、MSM)を対象に HIV の支援・相談体制の整備、HIV の感染予防啓発、HIV 抗体検査普及活動等が、様々なネットワークを構築・活用して取り組まれてきた。その介入の結果、首都圏の MSM における HIV 抗体検査の受検者割合の増加、エイズ発症後に感染がわかるケースの減少という成果をあげている。2011 年 3 月をもって戦略研究は終了したが、その後も MSM を対象とした効果的なエイズ対策を継続、展開していくことが望まれる。

2012 年 1 月、厚生労働省は感染症法に基づく「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針(以下、エイズ予防指針)」を改正した。今回の改正では、特に個別施策層への対策の更なる重点化、および行政と NGO 等の連携した取り組みの重要性等が明記された。加えて、個別施策層について、新たに「薬物乱用者」が追加されている。

こうしたことを踏まえ、本研究は首都圏の MSM を対象とし、HIV 感染予防の啓発普及および HIV 抗体検査受検行動を促進するための啓発普及を通じて、エイズ発症者が減少することと HIV 感染の拡大防止することを目的とする。啓発普及は、コミュニティセンターakta を基点としたコミュニティベースの活動、および特定非営利活動法人(以下、NPO 法人)ふれいす東京と NPO 法人 akta の協働体制である「MSM 首都圏グループ」の検査普及活動によって行われた。さらに、コミュニティにおける啓発活動を促進する、キーパーソン、商業施設やメディア等とのネットワーク、MSM が安心して受検できる HIV 抗体検査を促進するための行政・保健所、医療機関とのネットワーク、そして HIV に関連する多様なニーズに応じた支援を行っている NGO/NPO 等とのネットワークの強化や新たな構築を図っている。

研究 2 年目となる本年度は、以下のことを中心に実施した。

1. コミュニティセンターakta を基点とした啓発活動

2003 年 9 月にオープンしたコミュニティセンターakta では、2012 年 12 月末までの総来場者はのべ 87,088 人となった。また、2012 年度来場者数(2012 年 12 月 31 日まで)は 6,591 人、初来場者は 1,345 人(来場者中 20.4%)であった。

継続的な啓発資料として、毎月の定期発行制作物「コミュニティペーパーakta」と TAKE FREE CONDOM を作成した。これらのツールを、コミュニティセンターakta を基点とし、DELIVERY BOYS、ADULT DELIVERY や資料発送により普及を行った。

行政、検査施設との連携として、新宿区保健所、港区みなと保健所、東京都福祉保健局、多摩川病院等の検査情報を広報した。改正エイズ予防指針を踏まえ、東京都福祉保健局と連携し、薬物使用と HIV に関する資材やトークショーの企画、実施を行った。この取り組みは、東京都立精神保健福祉センターとの連携した研修会を始める等の広がりをみせた。

ゲイコミュニティのキーパーソンとの連携を強化、構築しながら、MSM の HIV の感染予防の普及啓発に関して新規性、およびより訴求性のあるメッセージを発信するキャンペーンとプログラムを新たに企画、実施した。2012 年 9 月から 10 月にかけて展開した「akta safer sex campaign 2012」では、首都圏地域のバーなどゲイ向け商業施設(200 店舗)、ゲイ向け性風俗店(15 店舗)との協力関係を強化、構築し、セーフアセックスに関するメッセージを伝えるカード、オリジナルコンドーム、ポスター等を制作、配布した。

多様性をともなう視点から、「私たちはもう HIV と一緒に生きている」というリアリティを伝える Living Together 計画の協力のもと、2004 年 9 月より実施されてきた「Living Together Lounge」が 2012 年 4 月に終了した。そのため、新たな啓発イベントのあり方の検討と企画を行い、8 月より「akta tag tour」を開始した。

2. 首都圏地域に居住する MSM を対象とした HIV 抗体検査受検行動を促進するための介入研究

戦略研究以後の、NPO 法人ふれいす東京と akta の協働体制「MSM 首都圏グループ」を通じて、地域の行政・保健所等、医療機関と連携し、MSM の HIV 抗体検査受検行動を促進するプロジェクト「ヤロープロジェクト」を展開した。具体的には、(1)エイズ対策事業に関する意見交換会の開催、(2)保健所等の HIV 抗体検査担当者への研修会の開催、(3)支援・相談体制の整備としてのウェブサイト「HIV マップ」の維持と更新、(4)首都圏の MSM を対象とした HIV 抗体検査普及のための冊子「ヤローページ」の開発と普及、(5)MSM 集団における啓発介入の評価調査について実施した。啓発普及は、新宿を基点に、上野・浅草、新橋、渋谷、横浜等で、ゲイ向け商業施設や各種メディアを通じて実施した。

3. MSM における行動科学調査および介入評価研究

首都圏における、MSM を対象とした HIV 感染対策活動の効果評価を、統計的調査などを通じて行った。

A. 研究目的

厚生労働省エイズ動向委員会の平成 23 年動向年報(2012 年 5 月 24 日発表)によれば、日本における新規の HIV 感染者報告数は 1,056 件、エイズ発症者報告数は 473 件であり、そのうちの約 61.5%が日本国籍の MSM で、大きな割合を占めている。さらに地域別でみると、東京都における新規感染報告数は HIV 感染者で全国の 35.2%、エイズ発症者数では 20.0%となっている。

2006 年度から 2010 年度にかけて、戦略研究では、首都圏での取り組みを行う支援団体・啓発普及団体・当事者団体といった複数の NGO/NPO で MSM 首都圏グループを構成し、首都圏に居住する MSM

を対象とする HIV の予防啓発・HIV 抗体検査普及活動を行ってきた。その介入の結果、首都圏の MSM における HIV 抗体検査の受検者割合の増加、エイズ発症で感染がわかるケースの減少という成果をあげている。戦略研究は 2011 年 3 月をもって終了したが、その後も首都圏の MSM を対象とした効果的な HIV 感染対策を継続、展開していくことが望まれる。

本研究は、首都圏の男性同性愛者等を対象に、HIV 感染予防の啓発普及、HIV 抗体検査の啓発普及を促進し、エイズ発症者の減少と HIV 感染拡大防止を目的とする。

啓発普及は、コミュニティセンター akta を基点

としたコミュニティベースの活動、NPO 法人ふれいす東京と akta の協働体制である MSM 首都圏グループによる検査普及活動によって行われた。これらの活動は、コミュニティにおける啓発活動を促進するキーパーソン、商業施設やメディア等とのネットワーク、MSM が安心して受検できる HIV 抗体検査を促進するための行政・保健所、医療機関とのネットワーク、そして HIV に関連する多様なニーズに応じた支援を行っている NGO/NPO 等とのネットワークの強化や継続を図りつつ、実施した。

B. 研究方法

1. 対象地域・対象者

首都圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)に居住する MSM を対象とする。なお、厚生労働科研究費補助金エイズ対策研究事業「男性同性間の HIV 感染対策とその介入効果に関する研究 [2009]」の推計によれば、首都圏に居住する MSM 人口は 297,283 名 (MSM 率 2.0%、15 歳以上男性より推計)とされている。

2. 研究方法および介入方法

首都圏の MSM を対象とし、HIV 感染予防の啓発普及および HIV 抗体検査受検行動を促進するための啓発普及を通じて、エイズ発症者が減少することと HIV 感染の拡大防止するため、戦略研究で構築した MSM への啓発、HIV 検査普及促進と支援・相談、研究成果を把握する調査のそれぞれが連動する研究体制を継続した(図 1)。

1) HIV 抗体検査受検行動を促進するための資材・プログラムの開発と普及

首都圏の NGO/NPO と協働し、HIV 感染をより身近に感じる契機をつくり、感染リスクの認識を高め、MSM に訴求性をもつ資材の開発とその配布を行った。具体的には、HIV 検査受検行動の促進を目的とした啓発資材を作成し、ゲイ向け商業施設、ゲイメディア、ゲイサークル等のネットワークを通じ、情報の浸透と普及拡大を図った。

2) MSM 対応検査体制の整備と拡大

NGO/NPO が行う広報と連動する保健所や公的 HIV 検査機関、STD 関連クリニック等を確保し、MSM の HIV 抗体検査受検の機会拡大を図ることを目的とした。受検行動の阻害因子と考えられる、検査機関での MSM への偏見や不適切な対応について、都県といった自治体と連携して検査担当者対象の研修会を実施し、このことを通じて MSM が安心して受検できる検査体制構築に貢献すると考えられる。

加えて、MSM の HIV 抗体検査受検機会の拡大の検討を主なテーマとした、地域におけるエイズ対策事業に関する意見交換会を都県、各保健所、公的 HIV 検査機関等と実施した。

3) 支援・相談体制の整備

HIV 検査受検前の感染不安、および感染告知後の不安等のニーズに対応する MSM 対象の相談・支援体制を整備することを目的とした。首都圏では戦略研究において、NGO/NPO 等による電話相談等のリソース情報について、関係機関・団体の許可を得てウェブサイト(「HIV マップ」)で案内をしてきた。戦略研究終了後、HIV マップは事業化され、NPO 法人ふれいす東京が受託し、継続している。本研究は、保健所や公的 HIV 検査機関等と連携した、MSM を対象とする HIV 抗体検査受検促進のための検査普及を、HIV マップと連動して継続的取組みを行った。

4) 評価調査体制の整備

首都圏の MSM を対象とした啓発普及が及ぼしたインパクトを評価するため、保健所、公的 HIV 検査機関等における HIV 検査受検件数、HIV 陽性件数を調査し、それらの動向の把握を行った。また、同検査機関の HIV 検査受検者への質問紙調査により MSM の受検者数(割合)、および啓発普及プログラムの暴露状況を把握した。

また介入対象地域の MSM を対象に、コミュニティを基盤とする横断調査を実施する。さらに横

断調査後、継続して行う質問紙調査に参加する MSM の調査協力者をリクルートし、啓発介入プログラムの認知率、生涯受検率および過去 1 年間の受検率等を把握するパネル調査を企画・実施した。

3. MSM における行動科学調査および介入評価研究

1) HIV 抗体検査受検者を対象とした質問紙調査

首都圏において MSM を対象に、保健所、公的機関などにおける HIV 抗体検査を促進する広報介入を行った。調査では、HIV 検査件数や陽性割合の動向、受検者アンケートによる受検者中の MSM 割合や啓発資材暴露率の動向、さらにエイズ発生動向調査を明らかにし、広報介入の効果を評価する。本研究の検査広報および受け入れに協力した施設(以下、定点施設)とそれ以外の施設に分けて分析する。

2) インターネット横断調査および追跡パネル調査

- (1) MSM 集団における本研究の啓発・広報戦略に暴露された割合
- (2) MSM 集団における HIV 抗体検査の生涯および過去 1 年間の受検率
- (3) 啓発暴露と受検行動の関連分析による効果評価など

C. 研究結果

1. コミュニティセンターakta を基点とした啓発活動

1) コミュニティセンター akta

(1) 役割と機能

コミュニティセンターakta は、MSM を対象とした HIV 感染対策をコミュニティベースで取り組む啓発普及拠点として、2003 年 8 月に新宿二丁目に設立された。HIV/エイズに関連した啓発活動がゲイコミュニティに根ざしたものとなるように、新宿や他地域のバー、クラブ、ハッテン場等のゲイ向け商業施設、ゲイコミュニティのキーパーソン等との協力関係を構築し、その利用者へのアプローチを進めてきた。

また、HIV/エイズに関連した行政や医療機関の

情報をコミュニティに普及させるために、厚生労働省をはじめ、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県などのエイズ担当部署、保健所、公的 HIV 検査機関や医療機関との関係性を構築し、連携を図っている。さらに啓発普及プロジェクトは、地域で HIV と MSM に関連した活動を行う NGO/NPO との連携のもとに進めている。

ここでは、コミュニティセンターakta の主な役割を「HIV とセクシュアルヘルスに関する情報の集約・発信ネットワークの基点(ハブ)」として定義する(図 2)。

コミュニティセンターakta では、以下の機能を果たしている。

- ①来場者への対応：必要な情報や必要に応じた相談の提供
- ②啓発プロジェクトの企画・実施
- ③MSM 向け啓発資材の作成と配布
- ④関係機関・団体とのコラボレーション
- ⑤保健所・公的 HIV 検査機関の検査担当者を対象とする MSM 対応の研修会の実施
- ⑥行政、検査施設との連携による資材の作成と配布
- ⑦展覧会、ワークショップ等の開催とコミュニティへの貸し出し

(2) 来場者の動向

2003 年 9 月のオープンから 2012 年 12 月末までの延べ総来場者は 87,088 名となった。2012 年度(2012 年 1 月 1 日～12 月 28 日、開館日数 212 日)の来場者数は 6,591 名、そのうち初来場者は 1,345 人(2012 年度来場者中 20.4%)であった(図 3)。2012 年度は 1 日平均 31.1 名(月平均 732.3 名)の来場があり、年齢も 10 代から 70 代までと幅の広い年齢層の利用があった。

来場者の主な利用目的はドロップイン(53.9%)、ミーティング・講習会(13.9%)、展覧会・イベント(13.9%)、アウトリーチ他(8.9%)、コミュニティ情報の持ち込み・入手(3.0%)、見学(2.4%)、相談(1.3%)、HIV/STI 情報(0.7%)

等であった(図4)。初来場者の中には、当初ドロップインや講習会、イベントへの参加を目的に来場していたが、その後、HIV/エイズに関する情報や相談を目的に再来場するケースがみられる。またそうした来場者が、コミュニティセンターaktaで行うボランティアのアウトリーチ活動につながるケースもみられた。

(3)相談対応

ここでいう相談とは、コミュニティセンター開館中のオープンスペースでの相談であり、個室でのカウンセリングは行っていない。セクシュアリティに配慮したピアな対応を基本の姿勢とし、傾聴と具体的な情報提供を主な方法としており、相談内容に応じて関係機関・団体、資材等を紹介する対応としている。

なお本年は、HIV/エイズに関連する行政、NGOやその他の関連領域機関との意見交換会を実施し、コミュニティセンターの支援・相談機能の強化を図ってきた。

相談件数は年々増加しており、その内容は来場者のニーズを示唆している。内容をみると、「HIV陽性者として(に仮になったとき)の生活・制度・支援」(20件)、HIV感染不安(16件)、HIV検査に関する相談・報告(13件)等が多くを占めていた。また医療機関に関するものや、メンタルヘルス領域として、薬物使用に関するものもみられた。

以下では、2012年度にみられた相談の取り組み事例について報告する(なお、個人を特定可能となる情報は改変をしている)。

事例①

相談者：30代ゲイ男性と20代ゲイ男性

事例：2人の共通の友人が肝炎で入院をし、そこでの検査でHIV感染が判明した。本人からHIV感染を告知され、気が動転した。何かできることはないだろうか、入院した本人は冷静に受け止めているようだけれど、内心はわからない。

対応：資材を用いてHIV/エイズの基本情報を説明し、相談・支援情報の掲載されたパンフレット

を渡した。HIV感染がわかった後も、周囲の人が変わらない態度で接することも大事な支援になるとアドバイスを行った。相談者は継続的にコミュニティセンターaktaを訪れ、近況を報告してくれた。その後、連携するゲイ向け商業施設の推薦で相談者の1人がHIVの啓発イベントに出演した。

事例②

相談者：20代前半MSM

事例：先日セックスをした相手から「自分はHIVに感染しているから、コンドームを使ってほしい」と言われた。コンドームを使用してセックスは行ったが、もしかしたらHIVに自分が感染したのではないかとパニック状態になった。

対応：不安な気持ちをまずは傾聴した。HIVの感染経路について、ゆっくりと説明を行った。HIV抗体検査の説明と検査施設について紹介した。相談の後落ち着きを取り戻し、そのまま即日検査を受検した。受検したその足で、陰性の結果について報告に来た。ウィンドーピリオドの後、地元の病院でHIV検査を再受検した。陰性の結果について、再度報告してくれた。その際に、今後の感染予防行動について決心したこと、さらに予防啓発活動への参加意欲について語っていた。

2) 継続的な啓発資材の作成と配布

(1)フリーペーパーとコンドームの作成

ゲイコミュニティに向けた月刊の情報誌として「コミュニティペーパーakta」を2005年から定期発行を行っている。その情報誌はコミュニティセンターaktaの周知、HIV/エイズやSTIの最新情報を発信することとセクシュアリティの理解の促進を目的とし、さらに、多彩な記事内容の掲載や執筆者の参加により、コミュニティセンターを中心とした「情報の集約と発信」のネットワークを表現するものとなっている。年間50,000部を発行し、新宿二丁目バーおよびクラブ164店舗、性風俗店およびボルノショップ47店舗などのゲイ向け商業施設、また、行政・教育・医療・研究機関等40施設、保健所49施設、そしてHIV

関連の NGO/NPO15 施設に配布を行っている。

啓発資材として TAKE FREE CONDOM を、2003 年より毎年約 20 種類のデザインを行い、制作をしている。こうしたコンドームはバー等、ゲイ向け商業施設に配布している。ゲイコミュニティに人気のクリエイターとのコラボレーションを通じたデザインを行い、そこにセーフターセックスに関するメッセージを載せ、常に話題性とゲイ向け商業施設の環境・動向への親和性をもったものを提供している。このコンドームは、年間に 63,000 個を制作・配布している。

(2) 配布活動

配布活動は、地域およびゲイ向け商業施設の業態に応じて、プロジェクト化を行っている(図 5)。新宿二丁目におけるゲイバーおよびクラブ 165 店舗については、「DELIVERY BOYS」プロジェクトを毎週金曜日に行っている。東京 23 区内のゲイ向け性風俗店 47 店舗については、「Adult DELIVERY」プロジェクトとして毎月 1 回配布を行っている。上記のプロジェクトでは単に資材を配布するだけではなく、ゲイコミュニティにおいて定期的に顔と顔をあわせた配布を行うことで配布先の対象者との信頼関係を構築し、さらにそこでの話題、環境、動向などについて把握することを目的に実施している。また、新宿以外の渋谷・新橋・上野・浅草のバー 85 店舗については、NPO 法人ふれいす東京と akta の連携プロジェクト「MSM 首都圏グループ」として配布を行っている。加えて、地域で MSM と HIV に関連する機関・施設等(行政機関、教育機関、医療機関、研究機関、保健所、HIV 関連 NGO、セクシャリティ関連、自助グループ、メディア関連等)154 件については郵送等で配布を行っている。

3) 予防行動促進キャンペーンの企画と実施

－ akta safer sex campaign 2012 －

戦略研究では、そのアウトカムは MSM の HIV 抗体検査受検を促進し、HIV 感染に早期に気づく人々を増やし、エイズ発症を予防しその報告数を

減少させることにあった。2006 年以来、首都圏ではこうした 2 次予防にあたる、検査普及を中心とした啓発に重点を置きながら展開してきた。

2010 年に戦略研究が終了した後、それによって構築された支援・相談体制、MSM 対応検査体制の継続を前提に、akta は今年度、1 次予防であるセーフターセックスとそれによる HIV 感染予防を呼びかける啓発として「akta safer sex campaign」の企画・実施を行った。

(1) 目的

本キャンペーンは、コミュニティセンター akta のある新宿二丁目を基点に、首都圏のゲイコミュニティにおいて、今一度「セーフターセックス」というコンセプトを意識化、可視化させ、そして人々が身体化できる契機をつくり出すことを目的とする。啓発によるセーフターセックスのコンセプトを可視化の際には、人々がそのイメージをより「カッコいいもの」としてポジティブに受け取るしかけ作りを行った。

なお、本プロジェクトは単年のものではなく、来年度以降も継続して実施する予防介入プロジェクトとして企画した。

(2) 方法

予防介入の対象としては MSM のうち、まず、予防行動に迷いやゆらぎのある層を設定した。こうした層に対し、特にセックスが行われる場に即した、訴求性をもつ資材によるアウトリーチを行うことにより、セーフターなセックスを改めて提案することとした。

今年度の介入を行うベニューとしては、「ハッテン場」と呼ばれるゲイ向け性風俗店を選択した。ゲイ向け性風俗店を対象とした理由は、①セックスをすることがその場の中心的な目的になっていること、②多くの MSM が利用していることがこれまでの調査等で明らかになっており、ゲイコミュニティに対して大きな発信の効果が预期されること、③商業施設であることで、その場を運営するオーナーやスタッフと連携が取れる可能

性が予期できることがあげられる。

こうしたゲイ向け商業施設を対象としたアウトリーチ活動を通じて、3つのレベルでの介入効果の指標を設定した。

第1に個人のレベルでは、ゲイ向け商業施設利用者が自分なりのセーフターセックスのガイドラインを再考する契機を得て、その結果、利用者のアナルセックス時のコンドーム使用率が向上することがあげられる。

第2にベニューであるゲイ向け商業施設のレベルでは、施設のオーナー、スタッフとの意見交換を前提としたキャンペーンを展開することにより、施設的环境が利用者にとって安心してセーフターセックスを行うことができるものに変えていく。

第3に、商業施設が集積するゲイコミュニティレベルでは、利用者を多くかかえ、大きな発信効果が期待できるゲイ向け性風俗店でキャンペーンを展開することにより、ゲイコミュニティ全体へセーフターセックスのコンセプトを波及させる。この3点を介入の指標として設定した。

① キャンペーン展開期間 :2012年9月21日から10月20日までの30日間。

② キャンペーンの構成

akta がゲイ向け商業施設と協力関係を結び、キャンペーンを展開するにあたり、ガイドラインを設定した(図6)。ガイドラインは以下の5点である。①利用者がコンドームやローションをより使いやすいように工夫をしていたり、あるいは今後そうした取り組みを行う意思がある、②違法・脱法ドラッグを販売していない、③違法・脱法ドラッグの使用を推奨しない、④HIV陽性者を排除するような案内が店内に無い、⑤キャンペーン終了後も意見交換を行ったり、引き続きHIV/エイズや性感染症の予防に関する自主的な取り組みを行う意思がある。既に配布活動に協力している等、関係性のあるゲイ向け性風俗店に協力依頼を郵送し、上記のガイドラインを検討したうえでの参加を募った。その結果、新宿12店舗、上野2店

舗、浅草1店舗の協力を得ることができた。

続いて、本キャンペーンの考えるセーフターセックスのキーメッセージ「Yes, Safer Sex! akta は、アナタのステキな SEX LIFE を応援します」を作成し、これに基づいて資材の作成を行った。資材はゲイ向け性風俗店において、キャンペーン展開期間中に利用者全員に配布する BAG 型メッセージカード付きローション・コンドームと、メッセージを伝えるポスターを作成した(図7)。

また、ゲイ向け性風俗店をベニューとしたキャンペーンを実施することを広報するため、新宿二丁目のバー等ゲイ向け商業施設を配布対象とした広報ポスターとオリジナルコンドーム、およびメッセージカードを作成した。なお、ゲイ向け性風俗店で配布されるコンドームとそれ以外のベニューで配布されるものは、資材認知による介入効果評価を図るため、異なるデザインで作成した(図8)。

本プロジェクトの効果評価は、本研究班のインターネット横断調査および追跡パネル調査と、ゲイ向け性風俗店のオーナーとの継続的な意見交換から得られる聞き取りの内容とした。介入前の聞き取った語りと介入後の聞き取り内容の比較を通じて、環境への介入効果を検討する。

(3) 結果

首都圏にあるゲイ向け性風俗店のうち、15店舗の協力を得て、施設の受付にて利用者全員に BAG 型メッセージカード付きローション・コンドームを配布した。これらの資材の総数は 40,000 セットとなった。またキャンペーンのリリースとして、新宿二丁目のバーなどゲイ向け商業施設を対象に、ポスター200枚、メッセージカード4,000部、オリジナルコンドームを10,000個配布した。キャンペーンの最終日10月20日には、3,500人程度の集客のある大規模ゲイイベント Shangri-La にて、オリジナルコンドームとメッセージカードを来場者に1,500セット配布した。

なお、横断調査およびパネル調査を通じた効果評価および、ゲイ向け風俗店のオーナーを対象と

した聞き取り内容の検討結果については、来年度に詳細を報告予定である。

4) Living Together 計画

多様性を伴った視点から、「全ての人が HIV とともに生きている」というリアリティを共有するためのプロジェクトとして、NPO 法人ふれいす東京と akta の協働のもとに 2003 年より実施されてきた。キーメッセージは「HIV に感染している人も、感染していない人も、どちらかわからない人も、すでに HIV とともに生きている」というもので、このメッセージを伝える手法としては、HIV 陽性者や家族やその周囲のひとたちが書いた手記を第三者が朗読し、その感想を語ることを通じて HIV のリアリティを伝えるイベントをはじめ、その表現する方法は対象に即して様々に展開している。こうした手法をとることによって、社会における HIV/エイズ、HIV 陽性者やその周囲の人たちの存在を可視化し、人々に HIV の問題に対して向き合うことを促すプロジェクトである(図 9)。

akta は、これまでに Living Together 計画のなかで HIV のリアリティを伝え、予防行動や検査行動を促進するイベントを企画・開催してきた。

(1) Living Together Lounge

2003 年より実施してきた LT Lounge は、2012 年 4 月に 88 回をもって終了した。LT Lounge は新宿二丁目にある商業施設「ArcH」において開催されてきた。このイベントでは、HIV 陽性者と家族、その周囲のひとたちが書いた手記を第三者が朗読し、感想を語る。3 人のゲストによる朗読と、その後にミュージシャンによるライブで構成された。なお、第 88 回は来場者が 126 名(うち、初来場者 36 名)であった。

これまでの LT Lounge による効果として、定期的に開催されることによってゲイコミュニティでの固定のファン層をつくり出し、コミュニティのなかに「Living Together」という言葉やそのコンセプトを定着させたことが挙げられる。例えば、ゲイコミュニティにおける質問紙調査等でも、

「HIV や HIV 陽性者に身近さを感じている」と回答する人の数は経年比較をすると、増加傾向にあった。また様々な立場の人が本イベントに参加し、手記の朗読を行うことによって、NGO/NPO や行政、キーパーソン、商業施設等が場を共有し、ネットワークを形成する機会となった。さらにこの手法は、ラジオ等のメディアや他地域などへの拡散を実現し、汎用性をみせた。

課題としては、回を重ねることにより、出演者の年齢や層に偏りが現れ、初来場者が減少傾向にあった。また、若年層を動員し続けることが難しくなったことも指摘できる。さらに、ゲイコミュニティにおいてイベントの認知が一定程度定着する反面、「何となく聞いたことがあるけれど、行こうとは思わない」という声も聞かれるようになり、イベント参加へのより強力なプル要因が必要となった。こうしたことをふまえ、LT Lounge は啓発の一時代を担ったと評価し、今年度で終了することとなった。そして、多様な出演者や参加者が集まる、より強力なプル要因を備えた新しい啓発イベントの企画・実施が必要とされた。

(2) Living Together のど自慢

LT のど自慢は、6 人のゲストによる HIV 陽性者とその周囲の人々が書いた手記の朗読と、カラオケパフォーマンス、そして 3 人のコメンテーターによる感想によって構成されるイベントである。本イベントは 2006 年より新宿二丁目にある老舗のバー「スナック九州男」を中心に、四半期に 1 回のペースで開催している。2012 年度の年間来場者(本報告執筆時点では 3 回分。4 回目を 2013 年 3 月 20 日に開催予定)は 152 名、うち初来場者数は 64 名(42.1%)であった。

課題としては、参加者の動員強化があげられる。動員にはイベントの出演者に負うところが多いが、手記朗読の感想を述べる際には、ある程度出演者のプライベートなことを開示するため、出演者が近い人を含め広く周知することに難しさを感じるなどの声が聞かれた。今年度の改善点として、出演者のリクルートを会場のスナック九州

男、NPO 法人ふれいす東京、akta で分担し、より多様な立場の人々やゲイコミュニティのキーパーソンを巻き込めるように工夫を行った。

(3) akta tag tour

LT Lounge が終了したことを受け、今年度、新たに企画・実施したのが akta tag tour である。本イベントは、akta が毎回様々なゲイコミュニティにおける人気チームと「タッグ」を組んで実施することにより、今まで啓発のメッセージが届いていない層や若年層に啓発を行うことを目的としている。

2012 年度にタッグを組んだチームは、ゲイサークル、ゲイ雑誌「Badi」、学生サークルであった。akta tag tour は、新宿二丁目にある商業施設「AiSOTOPE LOUNGE」において開催された(図 10)。

イベントの構成は、4 人のゲストによる HIV 陽性者・家族やその周囲のひとたちが書いた手記の朗読と、2 組のライブ・パフォーマンスとなっている。そして、タッグを組むイベントコーディネーターや朗読者、またイベントに関わる DJ やパフォーマー等と事前にミーティングを持つことで、企画の趣旨と HIV の現状を共有し、さらに HIV/エイズに関するメッセージの発信者を育てている。2012 年度の年間来場者(2 回分。3 回目を 2013 年 3 月 3 日に開催予定)は 134 名で、そのうち LT 計画関連イベントの初来場者は 103 名(76.9%)と、イベント参加者総数はまだ多くはないものの、新規参加者を比較的多く動員することができている。

課題としては、よりゲイコミュニティにおける啓発のメッセージが届いていない層の動員を図るため、イベントの持つブランドを確立させ、また周知を行うことが必要である。

5) 行政、検査施設等との連携

新宿区保健所、港区みなと保健所、東京都福祉保健局、医療法人社団大和会多摩川病院(東京都委託事業)などの MSM を対象とした行政・保健所の検査普及のための資料開発・配布等、アウト

リーチに協力した。また、厚生労働省・公益財団法人エイズ予防財団が呼びかける「世界エイズデー」キャンペーンテーマ検討会や東京都世界エイズデーポスター審議会にも参画した。

6) その他の事業

2012 年 1 月、厚生労働省は「エイズ予防指針」の改正を行い、個別施策層に「薬物乱用者」を追加することとした。この改正を受け、東京都福祉保健局は、薬物使用等の依存の問題と HIV 感染との関連や、精神保健福祉センター等の地域のリソースを紹介する資料作りを企画したので、akta はこれに協力することとした。この取り組みは、東京都立精神保健福祉センターと協働して、メンタルヘルスと HIV に関する研修会(2013 年 2 月 22 日開催予定)を実施することとなった。

コミュニティセンターakta では 2011 年より「HIV の今を知る Talk Show」として、HIV に関連する領域の現状や課題について、ゲストを招いたトークイベントを行った。2012 年度は「世界の中の HIV、国際エイズ会議 in ワシントン DC から」(9 月 22 日)、「HIV の MSM 対策とコミュニティ」(2013 年 1 月 12 日)、「HIV とドラッグのこと②」(2 月 17 日)、「その後の治療と生活」(3 月 16 日開催予定)のテーマで開催している。なお、本プログラムは東京都福祉保健局の委託事業として実施した。

学齢期の若年層に対する HIV およびセクシュアルヘルスの啓発として、東京都立高等学校および大学での講師派遣を 4 回行った。加えて、宇都宮市保健所にて、保健所職員向けのセクシュアリティと HIV に関する研修会を実施した。

2. 首都圏地域に居住する MSM を対象とした HIV 抗体検査受検行動を促進するための介入研究

1) 地域における MSM を対象とした HIV 抗体検査体制の整備および普及のための「ヤロープロジェクト」の実施

NPO 法人ふれいす東京と akta は協働して、首都圏居住の MSM に向けて HIV 抗体検査受検促進等の

体制整備および啓発普及に取り組む「MSM 首都圏グループ」を形成している。これが、2011 年 3 月の戦略研究の終了の後、首都圏における MSM の HIV 対策に取り組む協働体制である。MSM 首都圏グループの啓発対象地域は、ゲイ向け商業施設のある地域では新宿、上野・浅草、新橋、横浜であり、またその他の東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の地域については各種メディアを介して啓発普及を行うこととした。

2006 年度から 2010 年度には戦略研究において、行政や保健所・公的 HIV 検査機関等との関係構築をし、首都圏の MSM に対してウェブサイト「あんしん HIV 検査サーチ」等を通じて受検を推奨してきた。しかし、戦略研究が終了したことにより、この関係性が中断され、首都圏における MSM の HIV 検査受検環境が後退することを避けなければならない。そのため、再度 MSM 対象の HIV 検査が実施できる保健所や医療機関とのネットワーク構築を進めてきた。

東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県にある自治体や保健所・公的 HIV 検査施設と連携し、(1) 自治体・保健所等との「エイズ対策事業に関する意見交換会」の実施、(2) 保健所等の HIV 検査従事者を対象とした研修会、(3) MSM を対象とする検査普及資材「ヤローページ」の企画、作成、配布等を実施した。④ウェブサイト「HIV マップ」と連動した支援情報、検査情報の広報等を企画、実施した。これら一連の、首都圏居住の MSM を対象とした HIV 抗体検査普及のための体制整備および普及プロジェクトを、ここでは「ヤロープロジェクト」と命名し、実施した(図 11)。

(1) エイズ対策事業に関する意見交換会

戦略研究終了後、2011 年度より開始したプロジェクトである。厚生労働省の定める年 2 回の検査普及週間(6 月、12 月)にあわせて、年に 2 回実施している。首都圏における各自治体担当者、協力保健所・公的 HIV 検査機関等を対象に、意見交換会の参加を呼びかけている。この会の目的は、①MSM 首都圏グループの取り組みと成果の報告、

②保健師(検査担当者)を対象とする研修会の説明、③首都圏居住の MSM を対象とする、HIV 検査促進の啓発資材「ヤローページ」の企画説明と臨時・定例検査情報の提供依頼、④HIV 受検者アンケートの説明および速報と協力依頼、⑤各地域担当者との情報交換としている(図 12)。

今年度は 1 月 1 日に実施し、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の 22 機関から各自治体担当者・保健所等の HIV 検査担当者 29 名、オブザーバー 8 名(公益財団法人エイズ予防財団、国立保健医療科学院、区議会議員、大阪公衆衛生研究所)の参加があった。NGO/NPO と 4 都県の保健所・公的 HIV 検査機関の検査担当者が一堂に会し、それぞれの検査機関での経験について共有することで、首都圏の HIV 検査体制自体の課題を検討し、また日々の業務レベルでの役立つ知見の共有することができた。また、受検者アンケートの速報の共有により、「検査業務を実践するなかで得ていた感覚を、利用者の経験を知ることで、方向性を再確認することができた」などの意見がみられた。こうした、MSM 首都圏グループが基点(ハブ)となり、NGO/NPO と自治体、保健所・公的 HIV 検査機関との行政区域を越えた意見交換の場をもつことで、経験の共有にとどまらず、MSM を対象とした HIV 検査普及のための戦略および体制づくりにつながった。なお、今年度の第 4 回意見交換会は 2013 年 3 月 22 日に実施予定である。

(2) 保健所等の HIV 検査担当者を対象にした研修会

東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の HIV 検査担当者を対象とした研修会で、HIV 陽性者やその周囲の人々の書いた手記リーディング、セクシュアリティ理解、首都圏の MSM における HIV 感染の疫学動向、そして MSM 受検者や HIV 陽性者への相談・対応に関する、当事者参加による模擬対応を各自治体と協働して企画・実施した。東京都(7 月 20 日)は 29 名が参加、神奈川県(11 月 7 日)は 17 名が参加、千葉県(10 月 19 日)は 13 名が参加、埼玉県(9 月 14 日)は 19 名が参加した(図 13)。

参加者を対象としたアンケートからは、「性的な話題に対して対応のなかで取り扱うことに抵抗感があったが、研修を通じてその抵抗感を意識化することができ、業務で自分の弱点を自覚しながら取り組むことができると思えるようになった」、「普段接している来所者やその可能性のある人のなかに、MSM がいる可能性があるという身近感を得ることができた」、「陽性告知についても、他の NGO/NPO と連携したり、様々な資料を活用することで、少し落ち着いて対応ができるようになった」などのコメントを得た。このように、本研修会は検査担当者の MSM や HIV/エイズおよび HIV 陽性者への理解を深めることによって、そうしたケースへの準備性を高め、日々の業務のなかで適切な対応ができるように促すことを目的に実施した。

なお戦略研究以来、首都圏で行われているこの取り組みは東北地域、沖縄地域においても実施され、また、その他の地域でも本取り組みを参照した研修会が展開されている。来年度は保健所・公的 HIV 検査機関の検査担当者を対象とした MSM 受検者対応のための研修会のマニュアルの作成を予定している。

(3) MSM を対象とする検査普及の資料「ヤローページ」の企画、作成、配布

MSM が利用する首都圏のゲイスポット情報(ゲイ向け商業施設およびその周辺地域のマップ)と、MSM が安心して受けることのできる保健所・公的 HIV 検査施設の通常検査・臨時検査情報、そして MSM の文脈で編集をした HIV の基礎知識、支援・相談情報を掲載した啓発冊子を企画・制作し、首都圏のゲイ向け商業施設を対象に配布を行った(図 14)。

この取り組みは 2011 年度より開始し、今年度はゲイ向け商業施設情報を収集・掲載するにあたり、掲載のためのガイドラインを検討・設定を行った。作業プロセスは以下の通りである。まず、ゲイ向け商業施設に事前のアンケートを行い、ガイドラインに応じて掲載の可否を検討・実施した

(図 15)。このゲイ向け商業施設の掲載ガイドラインは、①本誌「ヤローページ」等、HIV や性の健康に関する情報グッズの設置に協力する、②MSM 首都圏グループが企画・編集する「ヤローページ」への店舗情報の掲載を希望する、③違法・脱法ドラッグの利用を禁止している、④違法・脱法ドラッグの販売を行っていない、の 4 点とした。

そしてこのガイドラインについて回答を行った、新宿、上野・浅草、新橋、渋谷、横浜、千葉、さいたまなどのゲイ向け商業施設 267 店舗について、その情報の掲載を行った。なお、それぞれの商業施設情報について、掲載確認などコミュニケーションを行った結果、商業施設との関係性を深めることができた。

なお、MSM 首都圏グループが企画・制作する MSM 向け検査普及のための資料への掲載ガイドラインは、保健所・公的検査機関についても設定を行っている。①都県と MSM 首都圏グループが実施する、検査従事者を対象とした MSM 対応のための研修会への参加、②エイズ対策のための意見交換会への参加、③施設での MSM 首都圏グループおよび akta の資料の活用、④HIV 検査の結果告知(陽性/陰性)の方法の情報共有、を掲載のためのガイドラインとし、これを満たしている東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の 56 施設を掲載している。2012 年度より広報対象の検査施設に埼玉県下の保健所・公的 HIV 検査機関の参加が始まった他、東京都、千葉県の新たな施設についても追加して参加があり、検査情報のカバーエリアを拡大することができた。

今年度はヤローページ 2012 年号外を 5 月に 10,000 部制作、またヤローページ 2012 秋冬号を 11 月に 8,000 部制作し、配布を行った。配布は、厚生労働省の定める HIV 検査普及週間にあわせて行った。477 ヶ所のゲイ向け商業施設等へのアウトリーチを行うことを通じて、その場を利用する MSM を対象に、477 ヶ所からの情報発信を行う体制が整った(図 16)。

「ヤローページ」は、HIV/エイズおよびその検査情報とゲイ向け商業施設情報をパッケージ化

することにより、資材にアウトリーチ対象の MSM に対する訴求性をもたせ、また読者がそれぞれのゲイライフのなかに HIV 検査を改めて位置づける契機づくりを目的に企画・制作した。この冊子をゲイ向け商業施設等の首都圏にある 477 ヶ所に配布を行うことにより、HIV 検査情報を積極的に探していない MSM 層に対し、検査情報に触れるコンタクトポイントを増やす機会となった。また、ゲイ向け商業施設情報とパッケージ化することで、アウトリーチに協力する商業施設にとってもメリットを感じられる資材となり、より積極的な協力を得ることができた。

来年度も、ゲイ向け商業施設および HIV 検査機関等との意見交換や連携を維持しつつ、ヤロープロジェクトの継続を予定している。

2) 相談体制の整備

戦略研究では、HIV に関連して生じる様々な相談ニーズ、特に MSM 向けの相談を対応可能な NGO/NPO 等と連携し、相談窓口を掲載し紹介するウェブサイト「HIV マップ」を制作した。本サイトは、MSM に向けて HIV 検査普及啓発を行うのに先だって、HIV 感染不安や HIV 陽性告知後の不安等に対応した支援・相談の情報提供体制整備の一環として位置づけられている(図 17)。

HIV マップは 2011 年度から厚生労働省の委託事業「同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業 同性愛者向けホームページによる検査相談等情報提供」として、NPO 法人ふれいす東京が受託運営を行っている。このサイトは MSM 首都圏グループと連動して運営されており、MSM 首都圏グループが紹介する保健所・公的 HIV 検査施設等の検査情報は「あんしん HIV 検査サーチ」としてウェブ上での広報を行っている。その他、HIV/エイズの基礎情報を伝える「HIV/エイズガイド」、疫学やこれまでの調査から明らかになっている MSM と HIV に関するファクトを伝える「データでみる、ゲイ・バイセクシャルと HIV/エイズ情報ファイル」などのコンテンツを備えた HIV の総合情報サイトとなっている。

本サイトの利用者の動向は、「google analytics」を用いてモニタリングを行っている。以下では、2012 年度の HIV マップの利用者の動向について報告する(以下の HIV マップに関するデータは 2012 年 4 月 1 日から 12 月 31 日の期間のものである)。

2012 年度の HIV マップの訪問者数(セッション数)は 91,906 件であった(月平均 10,211.8 件)(図 18)。そのうち、google analytics で把握可能な新規訪問者割合は 70.6%であった。また、ページビュー数は 273,4902 ページであり、訪問者平均ページビュー数は 2.98 ページであった。昨年の同期間と比較すると、新規訪問者割合は減少し、総訪問者数は 11.9%減少していた(2011 年 104,294 件)。しかしその一方で、訪問者平均ページビュー数は増加していた(2011 年 2.72 ページ、2012 年 2.98 ページ)。このことから、新規訪問者割合の減少による総訪問者数の減少傾向にあること、またその一方で、2012 年度の訪問者は HIV マップの各コンテンツを前年と比較してより多くみていることが明らかになった。

2012 年度の主な各コンテンツのページビュー数は下記の通りである。HIV お役立ちナビ(支援・相談情報)が 39,551 件(総ページビュー数における割合 14.5%)、あんしん HIV 検査サーチ(検査情報)が 58,521 件(21.4%)、HIV/エイズガイド(HIV/エイズ基礎情報)が 67,814 件(24.8%)、HIV/エイズ情報ファイル(疫学・ファクト情報)が 49,304 件(18.0%)であった。HIV/エイズガイドが最もページビュー数の多いコンテンツであった要因として、掲載情報にニーズがあったことと、さらにサイトに掲載されているイラストがプル要因となっていたと考えられる。後者の要因は、どのサイトから HIV マップにアクセスしているのか(リンク元)を分析すると、掲載イラストの制作を依頼したイラストレーター関連のサイトから多く流入していることから明らかになった。

加えて、2012 年度には HIV マップ利用者の閲覧に用いているデバイス機器についても変化があった。HIV マップを閲覧する際に PC を用いてい

る割合は前年と比較して 32.8%減少(2011 年 79,810件、2012年 53,650件)した一方で、スマートフォン・タブレット等のデバイスを用いている割合は 56.3%増加した(2011 年 24,484 件、2012 年 38,256 件)。ただし、この傾向が HIV マップ利用者に特有の傾向であるのか、あるいはウェブ利用者全体の傾向を反映しているのかを明らかにするためには、他ウェブサイトとの比較等、より詳細な分析による検討が必要である。

上記の動向把握を踏まえ、HIV マップの課題として、①HIV/エイズに関する情報について潜在的ニーズをもつ、新規利用者を多く獲得する仕掛けづくりをすること、②HIV マップ利用者のデバイス機器環境の変化にあわせた情報提供の方法の準備が挙げられる。

こうした課題をふまえ、2013 年 2 月には HIV マップ認知の向上および訪問者数の増加を目的とした「バレンタイン・キャンペーン」をウェブ上で展開している。なおこのキャンペーンは、スマートフォン利用者を重要な対象として位置づけ、広報を行っている。このキャンペーンの詳細な分析の報告は、来年度行う予定である。

3. MSM における行動科学調査および介入評価研究

1) HIV 抗体検査受検者を対象とした質問紙調査

本研究では、保健所・公的 HIV 検査機関での HIV 検査受検者を対象にアンケート調査を行い、MSM 受検者の動向把握および啓発介入に用いた資料認知を評価した。

(1) 研究方法

今年度は東京都 {19 機関 (第 2 四半期より 18 機関)}、神奈川県(7 機関)、千葉県(12 機関) (図 19) の HIV 検査受検者に対してアンケート調査を実施した。

(2) 研究結果

東京都

受検件数は第 1 四半期(2012 年 1 月-3 月)が 4,174 件、第 2 四半期(2012 年 4 月-6 月)が 4,579 件、第 3 四半期(2012 年 7 月-9 月)が 4,321 件、第 4 四半期(2012 年 10 月-12 月)が 4,476 件で、

全期間の総受検件数 17,550 件のうち陽性判明数は 123 件(0.70%)であった(表 1a)。

第 1、第 2、第 3、第 4 四半期それぞれの初回受検者割合は 53.1%、51.9%、51.5%、48.4%、24 歳以下割合は 21.8%、21.1%、22.4%、21.4%、MSM 割合は 16.1%、20.8%、19.8%、20.2%、性風俗利用者割合は 26.2%、24.4%、26.9%、26.3%、性風俗従事者割合は 3.5%、4.4%、4.5%、4.9% であった。

MSM の特性を把握するため、受検経験に着目し、初受検者と再受検者の差異を検討した(表 1b 及び 1c)。年齢については、初受検者 MSM は再受検者 MSM と比べて若年層の割合が有意に高かった($p<0.01$)。一人暮らしの割合(初受検者 MSM 54.0% vs 再受検者 MSM 60.0%、 $p=0.04$)や、未婚者の割合(87.1% vs 90.9%、 $p=0.04$)については、再受検者で有意に高かった。健康保険加入状況については、初受検者 MSM に未加入・無回答の割合が再受検者 MSM より高かった(6.4% vs 4.2%、 $p<0.01$)。

過去 6 か月間の性行動については、過去 6 か月間に男性との性行為がなかった割合は初受検者 MSM の 32.2%に比べて再受検者 MSM で 21.9%と有意に低かった($p<0.01$) (表 1b)。

初受検者 MSM と再受検者 MSM のそれぞれで周囲の HIV 感染者の存在について「いる・いると思う」と回答した割合(39.1% vs 59.0%、 $p<0.01$)、過去 6 ヶ月間に HIV 感染を不安に感じる事が「よくあった・時々あった」と回答した割合(初受検者 MSM 44.1% vs 再受検者 MSM 54.0%、 $p<0.01$)、HIV に関する相談相手や場所の認知割合(70.3% vs 81.6%、 $p<0.01$)、自発的検査割合(85.1% vs 95.2%、 $p<0.01$)、検査に一人で来た割合(84.7% vs 91.0%、 $p<0.01$)、広報資料認知割合(68.6% vs 80.6%、 $p<0.01$)はいずれも再受検者 MSM で高かった(表 1c)。

広報資料別では、行政の紙資料・ポスター広報誌等(初受検者 MSM 16.8% vs 再受検者 MSM 28.6%、 $p<0.01$)、行政のホームページ(27.0% vs 34.4%、 $p=0.01$)、NGO 資料(19.3% vs 41.9%、 $p<0.01$)、HIV

マップ(10.6% vs 20.0%、 $p<0.01$)、AC 広告(21.0% vs 28.3%、 $p=0.01$)の認知割合が初受検者 MSM に比し、再受検者 MSM で有意に高かった(表 1c)。

神奈川県

神奈川県は第 2 四半期(2012 年 4 月-)よりアンケート調査を開始した。受検件数は第 2 四半期が 1054 件、第 3 四半期が 942 件、第 4 四半期が 1011 件で、全期間の総受検件数 3,007 件のうち陽性判明数は 10 件(0.33%)であった(表 2a)。

第 2、第 3、第 4 四半期それぞれの初回受検者割合は 57.6%、51.4%、49.5%、24 歳以下割合は 18.1%、19.5%、19.4%、MSM 割合は 9.4%、11.0%、11.8%、性風俗利用者割合は 29.4%、28.4%、28.0%、性風俗従事者割合は 2.1%、2.6%、2.8%であった。

また初受検者と再受検者の差異を検討した結果(表 2b 及び 2c)、初受検者 MSM で居住地在神奈川県内の割合が再受検者 MSM に比し高かった(初受検者 MSM 95.6% vs 再受検者 MSM 82.4%、 $p=0.03$)。一方、一人暮らしをしている割合(24.4% vs 48.8%、 $p=0.01$)や未婚者の割合(73.3% vs 88.8%、 $p=0.01$)は再受検者で高かった。(表 2b)

周囲の HIV 感染者の存在について「いる・いると思う」と回答した割合(初受検者 MSM 31.1% vs 再受検者 MSM 51.2%、 $p=0.04$)、過去 6 ヶ月間に HIV 感染を不安に感じる事が「よくあった・時々あった」と回答した割合(31.1% vs 53.6%、 $p=0.01$)や自発的検査割合(66.7% vs 96.0%、 $p<0.01$)はいずれも再受検者 MSM で高かった(表 2c)。

広報資材では、NGO 資材(8.9% vs 28.8%、 $p=0.01$)、HIV 検査・相談マップ(31.1% vs 53.6%、 $p=0.01$)の認知割合が初受検者 MSM に比し、再受検者 MSM で有意に高かった(表 2c)。

千葉県

千葉県は第 2 四半期(2012 年 5 月-)よりアンケート調査を開始した。受検件数は第 2 四半期が

398 件、第 3 四半期が 565 件、第 4 全期間が 591 件で総受検件数 1,554 件のうち陽性判明数は 6 件(0.39%)であった(表 3a)。

第 2、第 3、第 4 四半期それぞれの初回受検者割合は 57.9%、52.4%、53.0%、24 歳以下割合は 20.6%、20.6%、20.0%、MSM 割合は 7.2%、7.7%、8.1%、性風俗利用者割合は 27.7%、24.7%、30.6%、性風俗従事者割合は 5.3%、4.8%、5.2%であった。

初受検者と再受検者の差異を検討した結果(表 3b 及び 3c)、初受検者 MSM と再受検者 MSM で社会属性、性行動、広報資材認知等に有意な差は見られなかった。しかし、過去 6 ヶ月間の男性との性行動におけるコンドームが非常用であった割合が再受検者 MSM では 70%を超えており、他地域より高い傾向にあった(表 3b)。また広報資材認知についても、他地域と異なり、総じて初受検者に比し再受検者での認知割合が低い傾向にあった(表 3c)。

2) インターネット横断調査および追跡パネル調査

2012 年度、MSM を対象とした横断調査から追跡可能な回答協力者を募り、性行動、検査行動の動向把握や普及啓発の効果を評価するパネル調査を実施した。方法として、「コミュニティペーパー akta」での紹介記事、および twitter 等ソーシャルネットワークサービスを介して横断調査への参加協力を呼びかけ、次いで、間歇的に実施されるパネル調査に首都圏での啓発活動を連動させ、首都圏の MSM 集団における検査行動、予防行動を評価した。

(1) 研究方法

本調査は、インターネットを用いた質問紙調査である。回答協力者のリクルートにあたっては、リクルート場所および方法の違いによる誘導効果を把握するために、固有の QR コードを設定して実施した。調査期間は 2012 年 4 月 6 日から 5 月 21 日までとした。

本調査実施期間に調査紙を掲載したウェブサイトには 2,705 件のアクセスがあり、そのうち 1,250 件の回答を得た(図 20)。リクルート基点別の回答数は、twitter からが最も多く 502 件(58.6%)であり、次いでコミュニティセンター akta が発行する「コミュニティペーパーakta」からが 211 件(24.6%)であった。なお、この QR コードが掲載されたコミュニティペーパーakta は、調査期間中、コミュニティセンターakta や新宿二丁目でのゲイ向けイベント、また大規模ゲイ向けイベント Shangri-La で配布された。

質問紙は基本属性、検査行動、性行動、性感染症既往歴、HIV に関する対話経験、回答者周囲の HIV 陽性者の有無、予防介入プログラムへの接触状況などの全 42 問とした。

本報告では、複数回この調査に回答している者を除き、首都圏に在住するゲイ・バイセクシュアル男性および MSM を分析対象とした。この条件から、分析対象となる件数は 714 件(有効回答率 57.1%)であった。

加えて、本研究では同時期に他地域で実施される同様の調査において、リクルートした回答協力者の居住地が首都圏であった場合、当該地域である首都圏の予防介入プログラムへの接触状況を把握できるようにシステムを設計した。他地域での調査から得られた首都圏に在住する分析対象者数は 142 件であり、最終的な分析対象となる件数は 855 件であった。

年齢層を 24 歳以下、25-29 歳、30-34 歳、35 歳-39 歳、40 歳以上の 5 グループに分類し、各質問項目をグループ別に分析した。

データの集計および統計処理については IBM SPSS Statistics 19 を用いた。なお、本研究実施計画については、名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会によって実施の承認を得た(ID 番号 11027-2)。

(2) 回答者の属性

24 歳以下は 290 件(32.0%)、25-29 歳は 181 件(21.1%)、30-34 歳は 160 件(18.7%)、35 歳-39

歳は 112 件(13.1%)、40 歳以上は 112 件(13.1%)であった(表 4a)。

(3) 過去 6 ヶ月間に利用したゲイ向け商業施設等について

利用した施設は、ゲイバーが最も多く 68.7%であり、この傾向は全年齢層に共通していた(表 4a)。そして mixi などの SNS が 60.7%、ゲイ向けアプリが 57.8%であった。また、いずれも利用していないと回答したのは 3.5%であった。

(4) HIV 抗体検査受検割合

生涯受検割合については、「ある」が 53.1%、「ない」が 46.9%だった(表 4b)。年齢別にみると、「ある」と回答した割合は、24 歳以下は 30.0%、25-29 歳は 55.2%、30-34 歳は 59.4%、35 歳-39 歳は 75.9%、40 歳以上は 77.7%であった。若年層の生涯受検が他の年齢層と比較して、低い傾向にあった。

過去 1 年間に受検経験を有する割合は、28.3%であった。年齢別にみると、24 歳以下は 21.0%、25-29 歳は 33.1%、30-34 歳は 32.5%、35 歳-39 歳は 34.8%、40 歳以上は 26.8%であった。24 歳以下および 40 歳以上では過去 1 年間の受検経験割合が低かった。

(5) 性行為経験とコンドーム使用行動

生涯で男性同性間のセックスを経験したことのある回答のうち、過去 6 ヶ月間に男性とアナルセックスを経験したとの回答は 75.1%であった(表 4d)。40 歳以上の 62.5%を除けば、いずれの年齢層も 7 割を超えていた。

過去 6 ヶ月間のアナルセックス経験者を対象にコンドーム使用状況をみると、常用が 42.4%、非常用が 57.6%だった(表 4e)。年齢別にみると、25-29 歳の年齢層の常用割合が 36.8%とやや低いが、有意な差は見られなかった。

(6) HIV 陽性者の身近さ、対話経験

HIV 陽性者が身近にいると思うか、との質問に

対して、「いる」が33.3%と最も多く、「いると思う」が25.4%で、その合計割合は年齢が上がるほど上昇していた（表4b）。傾向にあり、30歳以上ではすべての年齢層で7割を超えていた。

過去6ヶ月間にHIVやエイズについて対話した経験については相手別にみると、彼氏や恋人と「ある」が31.5%、友達や知り合いと「ある」は58.6%であった（表4c）。後者の関係性の方が、HIVやエイズについて対話していることが示された。

(7) コミュニティセンターakta およびコミュニティペーパー「akta」の認知

コミュニティセンターaktaについては、「行ったことがある」との回答が31.2%、「知っているが行ったことがない」が27.2%、「知らない」が41.6%であった（表4e）。

コミュニティペーパー「akta」については、「読んだことがある」との回答が38.9%、「知っているが読んだことがない」が13.4%、「知らない」が47.7%であった。

D. 考察

1. 首都圏における、ポスト戦略研究の介入体制の整備と運営

2006年から開始された戦略研究では、それまでにほとんどHIV関連の啓発が行われていなかった上野・浅草、新橋地域でMSMを対象に啓発を展開した。また、支援・相談体制として、地域で多様なニーズに応える支援を行っているNGO/NPOと連携し、ウェブ上でそうした情報提供をするプラットフォーム、ウェブサイトHIVマップを整備した。そして、検査拡大のキャパシティが高い保健所、公的HIV検査機関でのMSMの受検機会を確保し、検査行動を促進させる啓発を行った。

MSMの受検について積極的な受け入れを行った定点保健所では、2009年から2010年にMSM受検者割合が増加し、HIV陽性者割合も増加し、さらにMSM受検者の首都圏啓発資材の認知割合も著しく上昇していた。これらの結果は、戦略研究にお

ける首都圏居住のMSM対象の検査普及啓発の成果といえる。

戦略研究で得られた様々な成果をいかに継続・強化しながら、残された課題を整理し、より有効性のある啓発の企画・実施・評価を行うかが、ポスト戦略研究の介入体制整備の目標であった。そのため、本研究班では、NPO法人ふれいす東京およびaktaはMSM首都圏グループを形成し、厚生労働省が戦略研究の一部プログラムを事業化したことを活用するべく、今後の啓発普及の方向性を検討し、企画、実施した。

その結果、首都圏の(1)エイズ対策事業に関する意見交換会、(2)保健所等のHIV検査担当者を対象とした研修会、(3)MSMを対象とした、HIV検査受検行動促進のための啓発プロジェクト「ヤロープロジェクト」の普及と開発、(4)HIVのリアリティを伝えるLiving Together計画の新たなアプローチの試行、(5)HIV感染予防啓発のためのセーファーセックスキャンペーンの企画、実施、(6)支援・相談体制(ウェブサイトHIVマップ)との連動、(7)コミュニティセンターaktaの継続的な運営による、ゲイコミュニティへの普及啓発の基盤維持、(8)首都圏のMSMにおける啓発介入の評価調査の体制整備と実施をしてきた。

MSM首都圏グループでは、首都圏の自治体・関係機関と地域におけるMSMのエイズ対策に関する意見交換会を設け、対策の方向性をNGO/NPOと行政が連携して検討し、検査普及や予防啓発に取り組むこととしている。またそうした普及啓発は、コミュニティセンターaktaを基点として、顔と顔をあわせた配布活動を初めとする、コミュニティベースの取り組みを通じた、コミュニティとの連携に支えられている。本研究班は、啓発普及と効果評価が連動する研究に取り組み、地域のMSMを対象とした有効なエイズ対策の確立に貢献したいと考える。

2. 首都圏におけるHIV/エイズの動向

厚生労働省エイズ発生動向調査(2010年報報告)によれば、首都圏のHIV感染者報告数は、2010

年後半に増加がみられたが、他の地域ではこのような傾向はみられない。また、地域ブロック別のエイズ患者報告数は、近畿地域、東海地域では増加していたが、東京の2010年の報告数は横ばいの傾向にあった。また、2011年のHIV/エイズ報告数は409件であり、前年と比べ、100件減少している。特にエイズ患者報告数は前年と比較して23件減少し、東京では過去10年最も少ない報告数といわれている。そしてこの時期は、首都圏で戦略研究によるMSMを対象とした介入研究が集中的に行われた時期と一致している。

エイズ発生動向調査の傾向や東京都のエイズ患者報告数の減少から、東京のMSMの間ではHIV抗体検査が促進され、エイズ患者発生を抑制した可能性が考えられる。また東京都の報告においてHIV感染者の報告数が大きく減少した点については、MSMの間で予防行動が進み、新たなHIV感染の広がりが押さえられている可能性が考えられる。しかし、東京都の報告によれば、2012年第1週から第39週(～9月30日)までにHIV/エイズ感染報告数は339件であり、これは前年同時期までの報告と比較して37件増加している。そのうちのエイズ患者報告数についても前年よりも増加傾向にあり、今後の動向を観察する必要がある。

HIV感染者およびエイズ患者の発生を抑えるためには、今後もMSMを対象としたHIV抗体検査の促進と感染予防啓発について、地域の様々なセクターと連携しながら、ゲイコミュニティにおいて訴求性のあるアウトリーチを継続していくことが必要である。

E. 結語

首都圏居住のMSMを対象とした、支援・相談体制の継続、HIV抗体検査の啓発普及の強化、さらにHIV感染予防プロジェクトの企画と実施を通じて、エイズ発症者の減少とHIV感染の拡大防止を目的とした取り組みを行った。

コミュニティセンターを基点としたコミュニティベースの啓発活動、そしてNPO法人ぷれいす東京との協働体制であるMSM首都圏グルー

プによるHIV抗体検査普及啓発を行った。2011年3月に戦略研究が終了して2年目であり、また本研究の2年目である2012年度は、戦略研究の構築した成果を継続、整理し、また残された課題に取り組み始めた年でもあった。

戦略研究を契機に構築したネットワーク、すなわち地域を越えたコミュニティにおける啓発活動を促進するキーパーソン、ゲイ向け商業施設・ゲイ向けメディア等とのネットワーク、MSMが安心して受検できるHIV抗体検査環境を整備、促進するための行政、保健所、公的HIV検査機関や医療機関とのネットワーク、そして地域の多様なニーズに応える支援を行うNGO/NPOとのネットワークの継続と強化に取り組んだ。

F. 発表論文等

(論文)

1. 金子典代, 塩野徳史, コーナ・ジェーン, 新ヶ江章友, 市川誠一: 日本人成人男性における生涯でのHIV検査受検経験と関連要因, 日本エイズ学会誌, 14 (2), 99-105, 2012
2. Jane Koerner, Satoshi Shiono, Seiichi Ichikawa, Noriyo Kaneko, Hiroyuki Tsuji, Toshio Machi, Daisuke Goto and Tetsuro Onitsuka: Factors associated with unprotected anal intercourse and age among men who have sex with men who are gay bar customers in Osaka, Japan, Sexual Health, 9(4), 328-333, 2012
3. 市川誠一: 男性同性愛者を対象としたHIV抗体検査普及の取り組み-「エイズ予防のための戦略研究」後のエイズ発生動向の考察, 病原微生物検出情報, 33(9), 231-232, 2012

(国際学会発表)

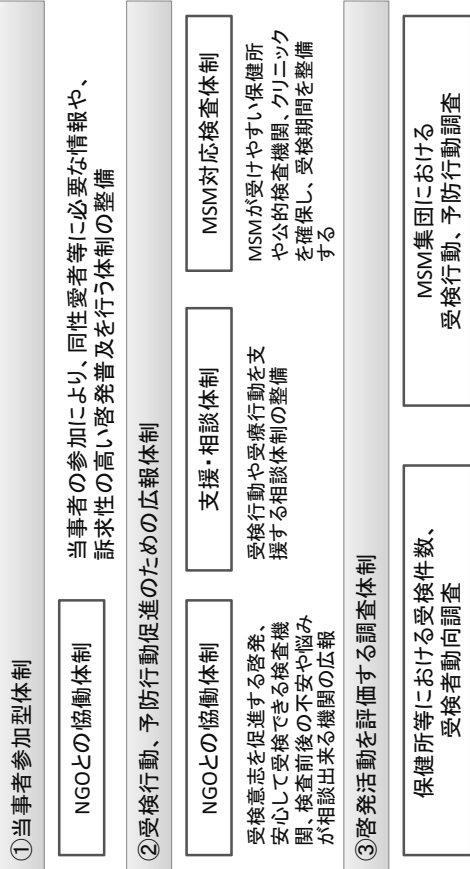
1. K. Iwahashi, S. Ichikawa, S. Shiono, N. Kaneko, J. Koerner, Y. Ikushima, J. Araki, K. Shibata, T. Kinami, M. Takano, S. Oka, S. Kimura: The Strategic Research "We can do it! 2010" campaign to promote testing behavior among MSM in the Tokyo region, The

16th International AIDS conference, July 2012,
Washington D.C.

(国内学会発表)

1. 柴田恵, 岩橋恒太, 生島嗣, 荒木順子, 高野操, 市川誠一: 首都圏居住 MSM を対象とした web サイト「HIV マップ」における抗体検査への準備性に注目した情報提供手法の開発-エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ-, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
2. 荒木順子, 佐久間久弘, 木南拓也, 大島岳, 柴田恵, 阿部甚兵, 岩橋恒太, 市川誠一: MSM を対象とするエイズ対策拠点としてのコミュニティセンターaktaの機能の検討, 第26回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
3. 町登志雄, 木南拓也, 藤浦裕二, 牧園祐也, 塩野徳史, 市川誠一: ゲイ・バイセクシュアル男性を対象としたアウトリーチ-アウトリーチ・マニュアル作成を通じて-, 第26回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
4. 生島嗣, 荒木順子, 岩橋恒太, 柴田恵, 佐久間久弘, 大島岳, 木南拓也, 高野操, 塩野徳史, 市川誠一: HIV検査提供機関, NPO, 研究機関による地域連携会議の効果に関する考察, 第26回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
5. 岩橋恒太, 荒木順子, 生島嗣, 塩野徳史, 佐久間久弘, 高野操, 大島岳, 木南拓也, 星野慎二, 柴田恵, 桜井啓介, 阿部甚兵, 市川誠一: 首都圏居住のMSMを対象とする検査普及プロジェクト「ヤロー」の構築と検討-「MSM首都圏グループ」の取り組み, 第26回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
6. 大島岳, 荒木順子, 木南拓也, 佐久間久弘, 岩橋恒太, 市川誠一: コミュニティセンターaktaにおける対面情報提供機能の検討, 第26回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012

図1.首都圏MSMのHIV感染対策の
企画、実施、評価体制整備に関する研究



MSMの受検行動や啓発普及効果を把握するための調査体制

図3.来場者数と利用目的

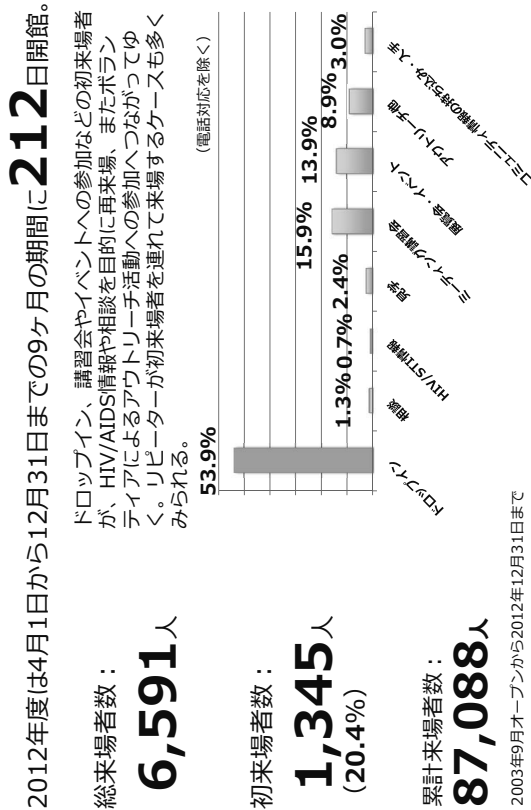


図2.MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営
啓発普及の基点（ハブ）

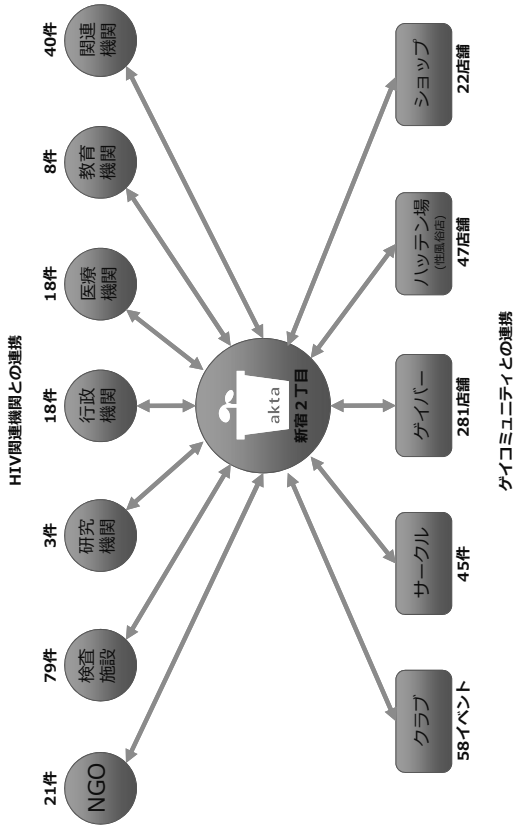


図4.相談と対応

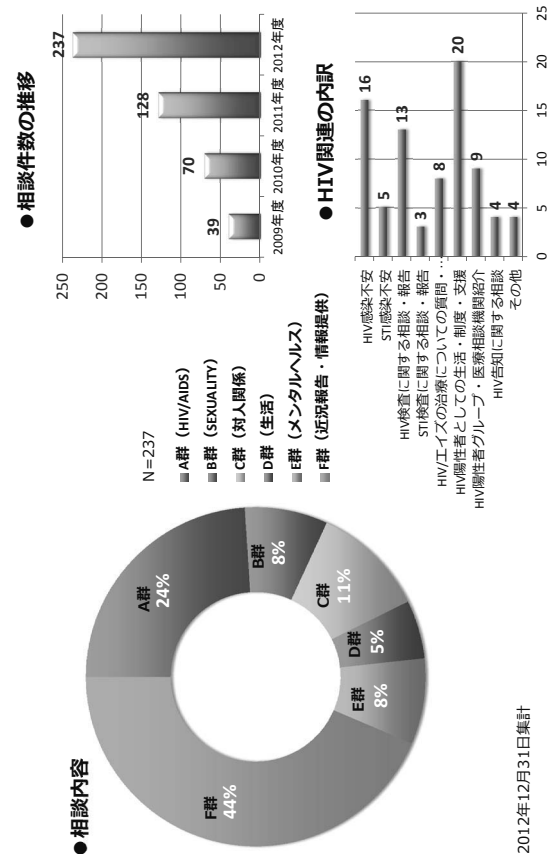


図5.DELIVERY HEALTH PROJECT (アウトリーチ)

バーへ	性風俗店へ	関連機関へ	首都圏全域へ
			
新宿 2丁目ゲイバー・&クラブ、 毎週金曜日（第3週を除く） 165 店舗へ配布。	東京23区内ゲイ向け性風俗店 & ボルノショップ、毎月1回 47 店舗へ配布。	MSMを取巻く環境へのメール 便・郵送でのアウトリーチ。 行政機関 18 件 教育機関 8 件 医療機関 18 件 研究機関 3 件 保健所 46 件 HIV関連NGO 16 件 セクシヤリテイ関連NGO 5 件 自助グループ 2 件 メディア関連 9 件 その他 29 件 合計 154 件	渋谷・新橋・上野・浅草のゲイ イバーへの配布と、訪問によ る配達を好まない首都圏ゲイ バーへの郵送によるアウト リーチ、 85 件へ発送。 ヤローバーへ検査情報が掲 載された神奈川県・千葉県、 埼玉県の保健所、 33 件。 合計 118 店舗

定期的に顔と顔をあわせた配布を行い、
街の空気を持ち帰る。



図7.キャンペーン@ハッテン場

2012.9.21~10.20.sat.
メッセージポスターの展示
BAG型メッセージカード+ローション付きコン
ドームの無料配布（受付にて手渡し）
@ガイドラインに準じた下記ハッテン場15店舗で展開
新宿：12軒
上野：2軒
浅草：1軒
総配布数：ポスター 50枚
ローション付きコンドーム 40,000セット



ハッテン場からの発信

図6. 予防行動促進キャンペーンの実施 メッセージングと発信店舗

メッセージ：
協力店舗のガイドライン：
●利用者がコンドームやローションをよ
り使いやすいような工夫をしていたり、
あるいは今後取り組みむ意志がある。
●違法・脱法ドラッグを販売していない
●違法・脱法ドラッグの使用を推奨しない。
●HIV陽性者を排除するような案内が店内
にない。
●キャンペーン終了後も、意見交換を行っ
たり、引き続きHIVや性感染症予防に関
する自主的な取り組みを行う意志がある。

協力店舗の地域と件数：
新宿を中心に定期的なaktaの訪問に協力を
している下記店舗
・新宿 12件
・上野 2件
・浅草 1件

図8.リリースキャンペーン@ゲイバー

2012.9.14~10.20.sat.
広報ポスターの展示&オリジナルコンドーム
とメッセージカードの配布
@新宿2丁目バー&商業施設約200店舗
総配布数：ポスター 約200枚
カード 4,000部
コンドーム 10,000個

毎月発行しているフリーペーパーも運動
タイバーでのポスター展示

バーからの発信

図9. 啓発イベントの開催

Living Together 計画

多様性を伴った視点から、「全ての人がHIVとともに生きていく」というリアリティーを共有するためのプロジェクト。ぶれいす東京とaktaが呼びかけ団体。



●メッセージ

HIVを持つ人も、そうじゃない人も、
ぼくたちはもういっしょに生きている。
We're already Living Together.

●手法

HIV陽性者やその周囲の人々が書いた手記を集めて、
第三者が朗読して、感想、体験を語ってもらうイベントをはじめ、
その表現方法は多岐にわたる。

●イベント開催の目的

HIV/AIDSや陽性者の存在を可視化し、リアリティーを伝え、
予防行動の促進と誰もが暮らしやすい街や社会をつくる。



図11. 検査環境の整備と検査行動の促進

方法

◎ヤロープロジェクト：体制の構築

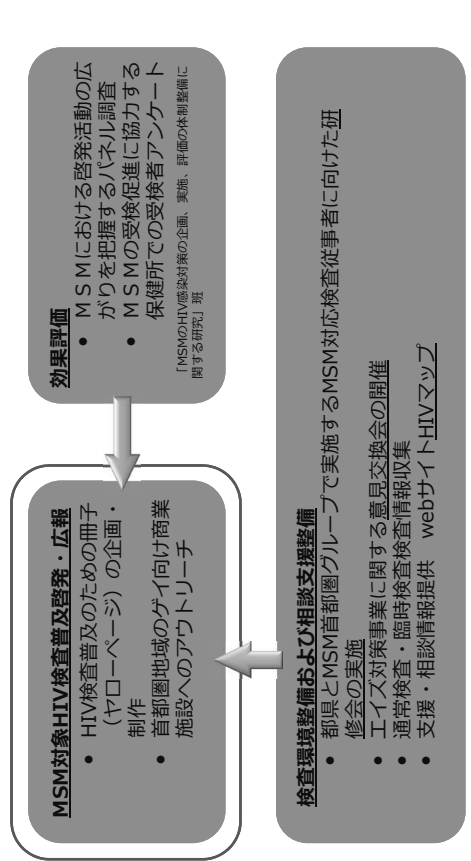


図10.akta tag tour

概要：・四半期に1回開催
・場所：新宿2丁目 AISOTOPE LOUNGE
・所用時間：5時間

※ 本プロジェクトの予算は
東京都福祉保健局と協働

- ・コーディネーター：2人
- ・朗読者：4人
- ・ライブ&パフォーマンス：2組
- ・HIV情報コーナー：1人



2012/08/05
みぞ飲み x **LIVING+TOGETHER**
来場者数：68人（初59人）

2012/12/07
Badi (テラ出版) x **LIVING+TOGETHER**
来場者数：66人（初44人）

構成や枠組を明確にし、毎回様々な人気チームとタッグを組むことで、今迄届いていない層や若い人、はじめてメッセージに触れるひとたちに届ける。
コーディネーターや朗読者を筆頭に、イベントに関わるDJやパフォーマンスなどもミーティングを持ち、企画趣旨とHIVの現状を伝えることで、発信者を育てる。

今後の課題：ブランドの確立と周知

図12.第3回エイズ対策事業に関する意見交換会

MSM首都圏グループ
厚生労働科研MSM研究班

日時：2012年8月1日
会場：新宿区戸塚地域センター

参加：合計37人

東京都：神奈川県・千葉県・埼玉県・埼玉県22機関から各自治体担当者・保健所等の検査担当者29人とオブザーバーとして8人が傍聴（公益財団法人エイズ予防財団・国立保健医療科学院・区議会議員3人・大阪公衆衛生研究所）

目的：MSM首都圏グループの取り組みへの理解を促進し、首都圏地域に於ける連携を強化し、MSM向けHIV検査普及と検査環境整備をすすめる。

内容：各参加施設へ自己紹介と近況報告
・2011年度MSM首都圏グループの活動報告
・今年度実施プログラムの説明と臨時・定例検査情報提供依頼
・検査施設における受検者アンケート調査の進捗状況と中間報告
・情報交換

考察：啓発をするNGOと連携する意味を獲得した。
・地域を越えた行政同士の経路の共有が、今後の検査業務に役立つ知見を得た。
・エンパワメントの場になっていた。
・保健所間の広域での取り組みが促されて参考になった。
・検査業務を実施するなかで得ていた感覚を、利用者評価情報を得ること
で、方向性を再確認することに役立っていた。
・今後の課題としては、福祉や教育と保健のさらに幅広い連携が必要だと
の声が多かった。

※ 第4回エイズ対策事業に関する意見交換会 2013年3月22日実施予定

NGOと行政、自治体の連携を図る。MSMを対象とするHIV検査環境を整備する。

図13.保健師（HIV検査担当者）研修会

MSM首都圏グループ 厚生労働科研MSM研究班	
東京都	千葉県
東京都福祉保健局 健康安全室感染症対策課 エイズ対策係	千葉県保健福祉部 疾病対策課 感染対策室
神奈川県 神奈川県保健福祉局 健康医療部健康危機管理課 感染対策グループ	
●日付：2012年7月20日 ●会場：都庁第一庁舎 ●参加人数： 29人	●日付：2012年10月19日 ●会場：市川健康福祉センター ●参加人数： 13人
●日付：2012年11月7日 ●会場：横浜開港記念会館 ●参加人数： 17人	●日付：2012年9月14日 ●会場：埼玉県浦和合同庁舎 ●参加人数： 19人
●プログラム（コーディネーター：生島 嗣／NPO法人ぶれいず東京）：	
① 開催都県のHIV/エイズ対策 ② アイスブレイク ③ 手記リーディング ④ セクシャル리티の理解と求められる記述 ⑤ MSMを対象にした戦略研究 結果・成果などから ⑥ 検査環境の取り組み事例の紹介と意見交換 ⑦ セクシャル리티に配慮した 検察対応 ⑧ 相談・支援に役立つリソース紹介/akta見学	



- アンケート（神奈川県）
 - ・ 性的な話題への抵抗感 → 研修を通して、性的な話題への抵抗感を感じることがなくなった。
 - ・ 身近にMSMがいるという意識 → 研修を通して、身近にMSMがいる意識が高まる傾向が見られた。
 - ・ HIV陽性者の相談も他の相談者同様に対応できるか → 研修を通して、対応する自信をつけた人が増えた。

MSMへの理解を深め、検査担当者が適切な対応ができるようにする。

図15.施設掲載基準

MSM首都圏グループ
厚生労働科研MSM研究班

- ◎ 検査施設ガイドライン
 1. 都県とMSM首都圏グループで実施するMSM対応検査従事者に向けた研修会への参加
 2. エイズ対策・HIV検査普及に関する意見交換会への参加
 3. 施設でのMSM首都圏グループの資材活用
 4. 検査結果（陽性/陰性）の伝え方の確認
- ◎ 掲載施設数(2012年11月発行分)
 - 東京都 18施設
 - 神奈川県 20施設
 - 千葉県 8施設
 - 埼玉県 10施設
- ◎ 掲載店舗数(2012年11月発行分)
 - 地域：新宿、上野、浅草、新橋、渋谷、横浜、千葉、さいたまなど
 - 1. バー 244店舗
 - 2. ハッチェススポット 23店舗

2011年度は出版社から店舗情報を入力し掲載。

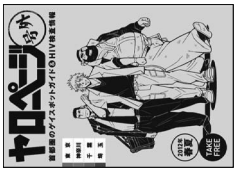
→

2012年度はコミュニティセンターのネットワークを活かし、店舗情報を直接収集・掲載。

図14.HIV検査普及のための冊子の企画・制作

MSM首都圏グループ
厚生労働科研MSM研究班

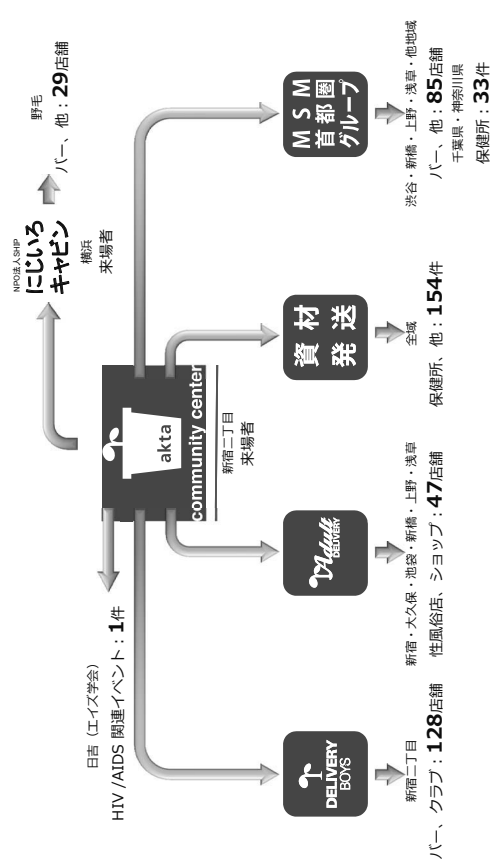
ヤローページ 号外 2012年春夏 2012年秋冬
5月発行10,000部配布 11月発行8,000部配布



ヤローページ=ゲイズスポット情報+HIV検査施設情報（基礎情報含む）
保健所などでの臨時検査が集中する6月・12月にあわせて、MSM層に訴求力のある検査情報資材を作成し、検査のイメージを一新する事で、ゲイライフの中にも位置づける。

図16. 検査環境の整備と検査行動の促進 首都圏全域へのアウトリーチ

MSM首都圏グループ
厚生労働科研MSM研究班



477ヶ所へのアウトリーチ、コミュニティセンターと477ヶ所からの発信。

HIVマッヅ すぐに役立つHIVの最新情報サイト | HIVお役立ちナビ | HIV/エイズガイド | あんしんHIV検査サ―手 | 情報ファイル

1月～3月までの
臨時検査情報も
随時更新中!!

詳しくはこちら→

お問い合わせはこちら
おんほんちゃん
HIV検査アプリ

お問い合わせはこちら
おんほんちゃん
HIV検査アプリ

詳しくはこちら→

データで見る、
ゲイ・バイセクシャルと
HIV/エイズ情報ファイル

お役立ちナビでは、HIVに関連するさまざまな立場の人たちに向けた情報を発信しているサイトをカテゴリー別に紹介しています。

- 同性者などの日記・手記集**
Gay & Voice
HIV陽性者などによって書かれた日記や手記などを集めたもの。
- HIV/STDとセックス**
HIV/STD
HIVやその他の性感染症とセックスに関する基礎知識をわかりやすく紹介。
- HIVイベントプロジェクト**
HIV events / projects
HIVに関連したイベントで、定期的に開催されているもの。
- ウェブサイト**
Websites
HIVや性感染症に関するウェブサイト。
- センター**
Centers
HIVや性感染症に関するセンター。

した質問紙調査

- イヰ相談事業担当**
 センター：品川区保健所
 所轄区保健所：大田区保健
 所健康課、大田区保健サ
 ンター健康課、北区
 保健所、江戸川保健所、地域
 相談室、東京都摩地域域

図18.HIVマップ 2011年度, 2012年度の利用者動向

ユ-ザ-サマリ-

- 訪問数の割合の変化: +0.00%

サマリー

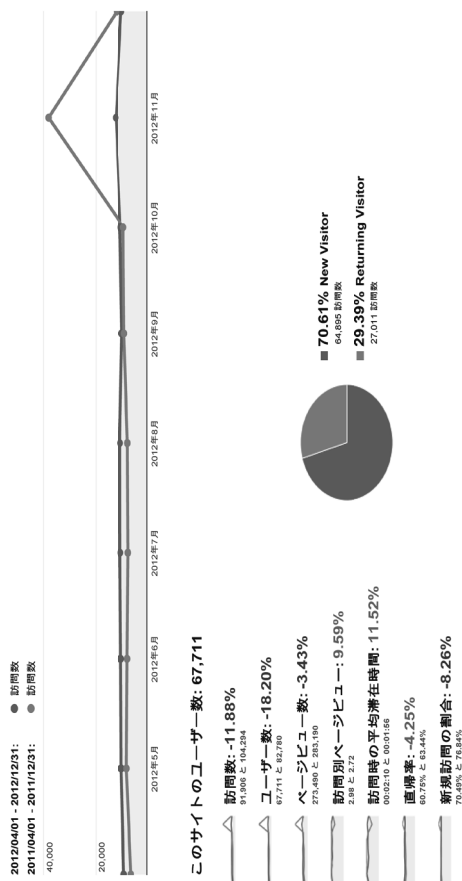


図20.インターネット横断調査：回答数

配布基点	アクセス数	回答数	有効回答数	有効回答率
コミュニティ メンバー マンスリーakta	348	248	211	85.1%
twitter	1,958	1,002	502	50.1%
基点不明	-	-	1	-
他地域での調 査における 回答者数	-	-	142	-
合計	2,705	1,250	856	-

表 1a. HIV 抗体検査受検者を対象とした質問紙調査の概要(東京都)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計
参加施設数	19	18	18	18	
検査件数					
男性	2869	3211	3068	3096	12244
女性	1296	1366	1253	1380	5295
その他	9	2	0	0	11
計(A)	4174	4579	4321	4476	17550
陽性判明数					
男性	30	30	34	27	121
女性	1	0	1	0	2
その他	0	0	0	0	0
計(B)	31	30	35	27	123
陽性判明率					
男性	1.05%	0.93%	1.11%	0.87%	0.99%
女性	0.08%	0.00%	0.08%	0.00%	0.04%
その他	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
計(B/A)	0.74%	0.66%	0.81%	0.60%	0.70%
回収数(C)	2374	2865	2665	2845	10749
回収率(C/A)	56.9%	62.6%	61.7%	63.6%	61.2%
初受検割合	53.1%	51.9%	51.5%	48.4%	51.2%
24歳以下割合	21.8%	21.1%	22.4%	21.4%	21.7%
MSM ^{*1} 割合	16.1%	20.8%	19.8%	20.2%	19.2%
性風俗利用者 ^{*2} 割合	26.2%	24.4%	26.9%	26.3%	25.9%
性風俗従事者 ^{*3} 割合	3.5%	4.4%	4.5%	4.9%	4.3%

*該当期間に得られた回答すべてを母数として割合を算出した。

*1 Men who have sex with men;生涯に男性との性交経験を有する男性

*2 過去6ヶ月間にお金を払った性交経験を有する人

*3 過去6ヶ月間にお金をもらった性交経験を有する人

表 1b. HIV 抗体検査受検者の受検経験別性別および性的指向別の基本集計(1) (東京都)
-2012 年 1 月～9 月に受検したものを対象とした分析結果-

	初受検者									再受検者									MSMにおける 受検経験別 Pearson χ^2 p値						
	性別および性的指向						合計			Pearson χ^2 p値			性別および性的指向							合計			Pearson χ^2 p値		
	MSM以外の男性 n=2070		女性 n=1428		MSM n=404					MSM以外の男性 n=1360		女性 n=846		MSM n=935					MSM以外の男性 n=3141					Pearson χ^2 p値	
居住地																									
	東京都	1696	81.9%	1184	82.9%	308	76.2%	3188	81.7%	0.01	1058	77.8%	714	84.4%	744	79.6%	2516	80.1%	<0.01						0.17
	東京都以外	374	18.1%	244	17.1%	96	23.8%	714	18.3%		302	22.2%	132	15.6%	191	20.4%	625	19.9%							
年齢																									
	19歳以下	40	1.9%	102	7.1%	29	7.2%	171	4.4%	<0.01	7	0.5%	12	1.4%	13	1.4%	32	1.0%	<0.01						<0.01
	20-29歳	864	41.7%	880	61.6%	198	49.0%	1942	49.8%		342	25.1%	425	50.2%	298	31.9%	1065	33.9%							
	30-39歳	721	34.8%	338	23.7%	98	24.3%	1157	29.7%		523	38.5%	310	36.6%	340	36.4%	1173	37.3%							
	40-49歳	302	14.6%	86	6.0%	41	10.1%	429	11.0%		316	23.2%	85	10.0%	200	21.4%	601	19.1%							
	50-59歳	85	4.1%	16	1.1%	21	5.2%	122	3.1%		109	8.0%	8	0.9%	54	5.8%	171	5.4%							
	60歳以上	58	2.8%	6	0.4%	17	4.2%	81	2.1%		63	4.6%	6	0.7%	30	3.2%	99	3.2%							
居住形態																									
	同居	1177	56.9%	852	59.7%	186	46.0%	2215	56.8%	<0.01	816	60.0%	522	61.7%	374	40.0%	1712	54.5%	<0.01						0.04
	独居	893	43.1%	576	40.3%	218	54.0%	1687	43.2%		544	40.0%	324	38.3%	561	60.0%	1429	45.5%							
婚姻状況																									
	未婚	1460	70.5%	1254	87.8%	352	87.1%	3066	78.6%	<0.01	847	62.3%	702	83.0%	850	90.9%	2399	76.4%	<0.01						0.04
	既婚	610	29.5%	174	12.2%	52	12.9%	836	21.4%		513	37.7%	144	17.0%	85	9.1%	742	23.6%							
健康保険加入状況																									
	国民健康保険/職場の健康保険	1849	89.3%	1037	72.6%	326	80.7%	3212	82.3%	<0.01	1263	92.9%	664	78.5%	831	88.9%	2758	87.8%	<0.01						<0.01
	被扶養者の健康保険	173	8.4%	338	23.7%	52	12.9%	563	14.4%		66	4.9%	149	17.6%	65	7.0%	280	8.9%							
	未加入/無回答	48	2.3%	53	3.7%	26	6.4%	127	3.3%		31	2.3%	33	3.9%	39	4.2%	103	3.3%							
生涯の性交経験																									
	ない	26	1.3%	20	1.4%	0	0.0%	46	1.2%	0.06	9	0.7%	6	0.7%	0	0.0%	15	0.5%	0.04						-
	ある	2044	98.7%	1408	98.6%	404	100.0%	3856	98.8%		1351	99.3%	840	99.3%	935	100.0%	3126	99.5%							
過去6ヶ月間の膣性交または肛門性交経験																									
	ない	840	40.6%	491	34.4%	94	23.3%	1425	36.5%	<0.01	504	37.1%	246	29.1%	179	19.1%	929	29.6%	<0.01						0.09
	ある	1230	59.4%	937	65.6%	310	76.7%	2477	63.5%		856	62.9%	600	70.9%	756	80.9%	2212	70.4%							
過去6ヶ月間に相手にお金を払ってセックスをしたことがありますか？																									
	ない(無回答含む)	1171	56.6%	1422	99.6%	340	84.2%	2933	75.2%	<0.01	619	45.5%	839	99.2%	804	86.0%	2262	72.0%	<0.01						0.38
	ある	899	43.4%	6	0.4%	64	15.8%	969	24.8%		741	54.5%	7	0.8%	131	14.0%	879	28.0%							
過去6ヶ月間に相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか？																									
	ない(無回答含む)	2053	99.2%	1329	93.1%	381	94.3%	3763	96.4%	<0.01	1348	99.1%	748	88.4%	894	95.6%	2990	95.2%	<0.01						0.30
	ある	17	0.8%	99	6.9%	23	5.7%	139	3.6%		12	0.9%	98	11.6%	41	4.4%	151	4.8%							
男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況																									
	過去6ヶ月間に行ない	2070	100.0%	513	35.9%	130	32.2%	2713	69.5%	<0.01	1360	100.0%	260	30.7%	205	21.9%	1825	58.1%	<0.01						<0.01
	常用	0	0.0%	190	13.3%	70	17.3%	260	6.7%		0	0.0%	114	13.5%	221	23.6%	335	10.7%							
	非常用	0	0.0%	725	50.8%	204	50.5%	929	23.8%		0	0.0%	472	55.8%	509	54.4%	981	31.2%							
女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況																									
	過去6ヶ月間に行ない	853	41.2%	1415	99.1%	303	75.0%	2571	65.9%	<0.01	518	38.1%	835	98.7%	783	83.7%	2136	68.0%	<0.01						<0.01
	常用	341	16.5%	3	0.2%	39	9.7%	383	9.8%		293	21.5%	1	0.1%	58	6.2%	352	11.2%							
	非常用	876	42.3%	10	0.7%	62	15.3%	948	24.3%		549	40.4%	10	1.2%	94	10.1%	653	20.8%							

*HIV抗体検査受検者のうち、属性に関して無回答であった者を除き、アンケートに初めて回答した者を分析対象とした。

表 1c. HIV 抗体検査受検者の受検経験別性別および性的指向別の基本集計(2) (東京都)
-2012年1月～9月に受検したものを対象とした分析結果-

	初受検者					再受検者					MSMにおける								
	性別および性的指向					合計 n=3902	Pearson χ ² p値	性別および性的指向					合計 n=3141	Pearson χ ² p値	受検経験別 Pearson χ ² p値				
	MSM以外の男性 n=2070	女性 n=1428	MSM n=404					MSM以外の男性 n=1360	女性 n=846	MSM n=935									
周囲のHIV感染者の有無																			
わからない(無回答含む)	524	25.3%	371	26.0%	84	20.8%	979	25.1%	<0.01	371	27.3%	232	27.4%	133	14.2%	736	23.4%	<0.01	<0.01
いない/いないと思う	1213	58.6%	791	55.4%	162	40.1%	2166	55.5%		724	53.2%	420	49.6%	250	26.7%	1394	44.4%		
いる/いると思う	333	16.1%	266	18.6%	158	39.1%	757	19.4%		265	19.5%	194	22.9%	552	59.0%	1011	32.2%		
「自分がHIVに感染していても今のまま働くことができる」と思いますか？																			
あまりそう思わない/そう思わない	835	40.3%	640	44.8%	143	35.4%	1618	41.5%	<0.01	600	44.1%	405	47.9%	359	38.4%	1364	43.4%	<0.01	0.30
そう思う/ややそう思う	1235	59.7%	788	55.2%	261	64.6%	2284	58.5%		760	55.9%	441	52.1%	576	61.6%	1777	56.6%		
「自分はHIVに感染しても恋愛や結婚はできる」と思いますか？																			
あまりそう思わない/そう思わない	1680	81.2%	1143	80.0%	289	71.5%	3112	79.8%	<0.01	1134	83.4%	707	83.6%	648	69.3%	2489	79.2%	<0.01	0.41
そう思う/ややそう思う	390	18.8%	285	20.0%	115	28.5%	790	20.2%		226	16.6%	139	16.4%	287	30.7%	652	20.8%		
過去6ヶ月間に“HIVに感染しているかも…”と不安に感じたことはありましたか？																			
あまりなかった/全くなかった	1366	66.0%	969	67.9%	226	55.9%	2561	65.6%	<0.01	689	50.7%	474	56.0%	430	46.0%	1593	50.7%	<0.01	<0.01
よくあった/時々あった	704	34.0%	459	32.1%	178	44.1%	1341	34.4%		671	49.3%	372	44.0%	505	54.0%	1548	49.3%		
HIVに関する相談相手や場所の認知																			
全く知らない(無回答含む)	736	35.6%	360	25.2%	120	29.7%	1216	31.2%	<0.01	424	31.2%	206	24.3%	172	18.4%	802	25.5%	<0.01	<0.01
知っている	1334	64.4%	1068	74.8%	284	70.3%	2686	68.8%		936	68.8%	640	75.7%	763	81.6%	2339	74.5%		
受検動機(動爰の有無)																			
人から勧められた、または誘われた	347	16.8%	263	18.4%	60	14.9%	670	17.2%	0.19	48	3.5%	40	4.7%	45	4.8%	133	4.2%	0.23	<0.01
自分で受けようと思った	1723	83.2%	1165	81.6%	344	85.1%	3232	82.8%		1312	96.5%	806	95.3%	890	95.2%	3008	95.8%		
同伴者の有無																			
1人で来た	1809	87.4%	1106	77.5%	342	84.7%	3257	83.5%	<0.01	1290	94.9%	700	82.7%	851	91.0%	2841	90.4%	<0.01	<0.01
友達・その他・無回答	71	3.4%	135	9.5%	30	7.4%	236	6.0%		14	1.0%	46	5.4%	35	3.7%	95	3.0%		
家族・恋人	190	9.2%	187	13.1%	32	7.9%	409	10.5%		56	4.1%	100	11.8%	49	5.2%	205	6.5%		
広報資材認知																			
いずれも認知なし	855	41.3%	526	36.8%	127	31.4%	1508	38.6%	<0.01	468	34.4%	289	34.2%	181	19.4%	938	29.9%	<0.01	<0.01
いずれか認知あり	1215	58.7%	902	63.2%	277	68.6%	2394	61.4%		892	65.6%	557	65.8%	754	80.6%	2203	70.1%		
広報資材認知(複数回答)																			
各行政の紙資材・ポスター・広報誌等	370	17.9%	237	16.6%	68	16.8%	675	17.3%	0.60	318	23.4%	189	22.3%	267	28.6%	774	24.6%	<0.01	<0.01
各行政のホームページ	462	22.3%	309	21.6%	109	27.0%	880	22.6%	0.07	333	24.5%	187	22.1%	322	34.4%	842	26.8%	<0.01	0.01
NGO資材	69	3.3%	45	3.2%	78	19.3%	192	4.9%	<0.01	86	6.3%	51	6.0%	392	41.9%	529	16.8%	<0.01	<0.01
HIVマップ	86	4.2%	71	5.0%	43	10.6%	200	5.1%	<0.01	84	6.2%	60	7.1%	187	20.0%	331	10.5%	<0.01	<0.01
HIV検査・相談マップ	514	24.8%	492	34.5%	125	30.9%	1131	29.0%	<0.01	407	29.9%	301	35.6%	306	32.7%	1014	32.3%	0.02	0.52
AC広告(エイズ予防財団)	267	12.9%	256	17.9%	85	21.0%	608	15.6%	<0.01	215	15.8%	135	16.0%	265	28.3%	615	19.6%	<0.01	0.01

*HIV抗体検査受検者のうち、属性に関して無回答であった者を除き、アンケートに初めて回答した者を分析対象とした。

表 2a. HIV 抗体検査受検者を対象とした質問紙調査の概要(神奈川県)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計
参加施設数	7	7	7 ^{*4}		
検査件数					
男性	767	645	700		2112
女性	287	297	310		894
その他	0	0	1		1
計(A)	1054	942	1011		3007
陽性判明数					
男性	4	1	4		9
女性	0	1	0		1
その他	0	0	0		0
計(B)	4	2	4		10
陽性判明率					
男性	0.52%	0.16%	0.57%		0.43%
女性	0.00%	0.34%	0.00%		0.11%
その他	0.00%	0.00%	0.00%		0.00%
計(B/A)	0.38%	0.21%	0.40%		0.33%
回収数(C)	918	930	955		2803
回収率(C/A)	87.1%	98.7%	94.5%		93.2%
初受検割合	57.6%	51.4%	49.5%		52.8%
24歳以下割合	18.1%	19.5%	19.4%		19.0%
MSM ^{*1} 割合	9.4%	11.0%	11.8%		10.7%
性風俗利用者 ^{*2} 割合	29.4%	28.4%	28.0%		28.6%
性風俗従事者 ^{*3} 割合	2.1%	2.6%	2.8%		2.5%

*該当期間に得られた回答すべてを母数として割合を算出した。

*1 Men who have sex with men;生涯に男性との性交経験を有する男性

*2 過去6ヶ月間にお金を払った性交経験を有する人

*3 過去6ヶ月間にお金をもらった性交経験を有する人

*4 第4四半期は臨時検査による検査数も含む。

表 2b. HIV 抗体検査受検者の受検経験別性別および性的指向別の基本集計(1) (神奈川県)
-2012年4月～9月に受検したものを対象とした分析結果-

	初受検者										再受検者										MSMにおける 受検経験別 Pearson χ^2 p値
	性別および性的指向						合計 n=935	Pearson χ^2 p値	性別および性的指向						合計 n=642	Pearson χ^2 p値					
	MSM以外の男性 n=581		女性 n=309		MSM n=45				MSM以外の男性 n=337		女性 n=180		MSM n=125								
居住地																					
	神奈川県	514	88.5%	280	90.6%	43	95.6%	837	89.5%	0.24	301	89.3%	163	90.6%	103	82.4%	567	88.3%	0.07	0.03	
	神奈川県以外	67	11.5%	29	9.4%	2	4.4%	98	10.5%		36	10.7%	17	9.4%	22	17.6%	75	11.7%			
年齢																					
	19歳以下	16	2.8%	31	10.0%	2	4.4%	49	5.2%	<0.01	0	0.0%	3	1.7%	2	1.6%	5	0.8%	<0.01	0.40	
	20-29歳	230	39.6%	171	55.3%	20	44.4%	421	45.0%		84	24.9%	85	47.2%	46	36.8%	215	33.5%			
	30-39歳	214	36.8%	73	23.6%	16	35.6%	303	32.4%		145	43.0%	59	32.8%	48	38.4%	252	39.3%			
	40-49歳	75	12.9%	26	8.4%	3	6.7%	104	11.1%		70	20.8%	29	16.1%	20	16.0%	119	18.5%			
	50-59歳	31	5.3%	7	2.3%	3	6.7%	41	4.4%		26	7.7%	4	2.2%	4	3.2%	34	5.3%			
	60歳以上	15	2.6%	1	0.3%	1	2.2%	17	1.8%		12	3.6%	0	0.0%	5	4.0%	17	2.6%			
居住形態																					
	同居	377	64.9%	225	72.8%	34	75.6%	636	68.0%	0.03	218	64.7%	124	68.9%	64	51.2%	406	63.2%	0.01	0.01	
	独居	204	35.1%	84	27.2%	11	24.4%	299	32.0%		119	35.3%	56	31.1%	61	48.8%	236	36.8%			
婚姻状況																					
	未婚	382	65.7%	267	86.4%	33	73.3%	682	72.9%	<0.01	210	62.3%	139	77.2%	111	88.8%	460	71.7%	<0.01	0.01	
	既婚	199	34.3%	42	13.6%	12	26.7%	253	27.1%		127	37.7%	41	22.8%	14	11.2%	182	28.3%			
健康保険加入状況																					
	国民健康保険/職場の健康保険	540	92.9%	224	72.5%	38	84.4%	802	85.8%	<0.01	321	95.3%	137	76.1%	117	93.6%	575	89.6%	<0.01	0.12	
	被扶養者の健康保険	29	5.0%	68	22.0%	3	6.7%	100	10.7%		9	2.7%	36	20.0%	5	4.0%	50	7.8%			
	未加入/無回答	12	2.1%	17	5.5%	4	8.9%	33	3.5%		7	2.1%	7	3.9%	3	2.4%	17	2.6%			
生涯の性交経験																					
	ない	13	2.2%	8	2.6%	0	0.0%	21	2.2%	0.55	3	0.9%	1	0.6%	0	0.0%	4	0.6%	0.55	-	
	ある	568	97.8%	301	97.4%	45	100.0%	914	97.8%		334	99.1%	179	99.4%	125	100.0%	638	99.4%			
過去6ヶ月間の匿名または肛門性交経験																					
	ない	258	44.4%	121	39.2%	8	17.8%	387	41.4%	<0.01	131	38.9%	61	33.9%	20	16.0%	212	33.0%	<0.01	0.78	
	ある	323	55.6%	188	60.8%	37	82.2%	548	58.6%		206	61.1%	119	66.1%	105	84.0%	430	67.0%			
過去6ヶ月間に相手にお金を払ってセックスをしたことがありますか？																					
	ない(無回答含む)	332	57.1%	308	99.7%	35	77.8%	675	72.2%	<0.01	164	48.7%	179	99.4%	109	87.2%	452	70.4%	<0.01	0.13	
	ある	249	42.9%	1	0.3%	10	22.2%	260	27.8%		173	51.3%	1	0.6%	16	12.8%	190	29.6%			
過去6ヶ月間に相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか？																					
	ない(無回答含む)	579	99.7%	294	95.1%	42	93.3%	915	97.9%	<0.01	336	99.7%	168	93.3%	118	94.4%	622	96.9%	<0.01	0.79	
	ある	2	0.3%	15	4.9%	3	6.7%	20	2.1%		1	0.3%	12	6.7%	7	5.6%	20	3.1%			
男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況																					
	過去6ヶ月間に行わない	581	100.0%	125	40.5%	15	33.3%	721	77.1%	<0.01	337	100.0%	65	36.1%	26	20.8%	428	66.7%	<0.01	0.07	
	常用	0	0.0%	24	7.8%	3	6.7%	27	2.9%		0	0.0%	19	10.6%	24	19.2%	43	6.7%			
	非常用	0	0.0%	160	51.8%	27	60.0%	187	20.0%		0	0.0%	96	53.3%	75	60.0%	171	26.6%			
女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況																					
	過去6ヶ月間に行わない	262	45.1%	309	100.0%	25	55.6%	596	63.7%	<0.01	135	40.1%	175	97.2%	93	74.4%	403	62.8%	<0.01	0.06	
	常用	79	13.6%	0	0.0%	7	15.6%	86	9.2%		58	17.2%	2	1.1%	11	8.8%	71	11.1%			
	非常用	240	41.3%	0	0.0%	13	28.9%	253	27.1%		144	42.7%	3	1.7%	21	16.8%	168	26.2%			

*HIV抗体検査受検者のうち、属性に関して無回答であった者を除き、アンケートに初めて回答した者を分析対象とした。

表 2c. HIV 抗体検査受検者の受検経験別性別および性的指向別の基本集計(2) (神奈川県)
-2012年4月～9月に受検したものを対象とした分析結果-

	初受検者								Pearson χ^2 p値	再受検者								MSMにおける 受検経験別 Pearson χ^2 p値	
	性別および性的指向						合計 n=935	性別および性的指向						合計 n=642					
	MSM以外の男性 n=581		女性 n=309		MSM n=45			MSM以外の男性 n=337		女性 n=180		MSM n=125							
周囲のHIV感染者の有無																			
わからない(無回答含む)	144	24.8%	95	30.7%	6	13.3%	245	26.2%	<0.01	87	25.8%	45	25.0%	17	13.6%	149	23.2%	<0.01	0.04
いない/いないと思う	370	63.7%	176	57.0%	25	55.6%	571	61.1%		199	59.1%	106	58.9%	44	35.2%	349	54.4%		
いる/いると思う	67	11.5%	38	12.3%	14	31.1%	119	12.7%		51	15.1%	29	16.1%	64	51.2%	144	22.4%		
「自分がHIVに感染していても今のまま働くことができる」と思いますか？																			
あまりそう思わない/そう思わない	257	44.2%	153	49.5%	15	33.3%	425	45.5%	0.08	154	45.7%	96	53.3%	54	43.2%	304	47.4%	0.15	0.25
そう思う/ややそう思う	324	55.8%	156	50.5%	30	66.7%	510	54.5%		183	54.3%	84	46.7%	71	56.8%	338	52.6%		
「自分はHIVに感染しても恋愛や結婚はできる」と思いますか？																			
あまりそう思わない/そう思わない	486	83.6%	252	81.6%	35	77.8%	773	82.7%	0.49	291	86.4%	150	83.3%	88	70.4%	529	82.4%	<0.01	0.34
そう思う/ややそう思う	95	16.4%	57	18.4%	10	22.2%	162	17.3%		46	13.6%	30	16.7%	37	29.6%	113	17.6%		
過去6ヶ月間に「HIVに感染しているかも…」と不安に感じたことはありましたか？																			
あまりなかった/全くなかった	406	69.9%	219	70.9%	31	68.9%	656	70.2%	0.94	193	57.3%	111	61.7%	58	46.4%	362	56.4%	0.03	0.01
よくあった/時々あった	175	30.1%	90	29.1%	14	31.1%	279	29.8%		144	42.7%	69	38.3%	67	53.6%	280	43.6%		
HIVに関する相談相手や場所の認知																			
全く知らない(無回答含む)	217	37.3%	109	35.3%	13	28.9%	339	36.3%	0.48	118	35.0%	50	27.8%	29	23.2%	197	30.7%	0.03	0.45
知っている	364	62.7%	200	64.7%	32	71.1%	596	63.7%		219	65.0%	130	72.2%	96	76.8%	445	69.3%		
受検動機(勧奨の有無)																			
人から勧められた、または誘われた	107	18.4%	73	23.6%	15	33.3%	195	20.9%	0.02	16	4.7%	17	9.4%	5	4.0%	38	5.9%	0.06	<0.01
自分で受けようと思った	474	81.6%	236	76.4%	30	66.7%	740	79.1%		321	95.3%	163	90.6%	120	96.0%	604	94.1%		
同伴者の有無																			
1人で来た	479	82.4%	203	65.7%	34	75.6%	716	76.6%	<0.01	315	93.5%	145	80.6%	109	87.2%	569	88.6%	<0.01	0.08
友達・その他・無回答	27	4.6%	39	12.6%	5	11.1%	71	7.6%		8	2.4%	9	5.0%	11	8.8%	28	4.4%		
家族・恋人	75	12.9%	67	21.7%	6	13.3%	148	15.8%		14	4.2%	26	14.4%	5	4.0%	45	7.0%		
広報資材認知																			
いずれも認知なし	176	30.3%	92	29.8%	9	20.0%	277	29.6%	0.35	91	27.0%	54	30.0%	17	13.6%	162	25.2%	<0.01	0.31
いずれか認知あり	405	69.7%	217	70.2%	36	80.0%	658	70.4%		246	73.0%	126	70.0%	108	86.4%	480	74.8%		
広報資材認知(複数回答)																			
各行政の紙資材・ポスター・広報誌等	28	4.8%	25	8.1%	7	15.6%	60	6.4%	0.01	27	8.0%	21	11.7%	23	18.4%	71	11.1%	0.01	0.67
各行政のホームページ	254	43.7%	136	44.0%	22	48.9%	412	44.1%	0.80	168	49.9%	77	42.8%	46	36.8%	291	45.3%	0.03	0.16
NGO資材	4	0.7%	3	1.0%	4	8.9%	11	1.2%	<0.01	1	0.3%	6	3.3%	36	28.8%	43	6.7%	<0.01	0.01
HIVマップ	21	3.6%	20	6.5%	7	15.6%	48	5.1%	<0.01	20	5.9%	15	8.3%	31	24.8%	66	10.3%	<0.01	0.20
HIV検査・相談マップ	189	32.5%	115	37.2%	14	31.1%	318	34.0%	0.34	119	35.3%	68	37.8%	67	53.6%	254	39.6%	<0.01	0.01
AO広告(エイズ予防財団)	37	6.4%	34	11.0%	6	13.3%	77	8.2%	0.03	29	8.6%	17	9.4%	22	17.6%	68	10.6%	0.02	0.51

*HIV抗体検査受検者のうち、属性に関して無回答であった者を除き、アンケートに初めて回答した者を分析対象とした。

表 3a. HIV 抗体検査受検者を対象とした質問紙調査の概要(千葉県)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計
参加施設数	12	12	12		
検査件数					
男性	262	380	386		1028
女性	136	185	205		526
その他	0	0	0		0
計(A)	398	565	591		1554
陽性判明数					
男性	1	3	1		5
女性	0	0	1		1
その他	0	0	0		0
計(B)	1	3	2		6
陽性判明率					
男性	0.38%	0.79%	0.26%		0.49%
女性	0.00%	0.00%	0.49%		0.19%
その他	0.00%	0.00%	0.00%		0.00%
計(B/A)	0.25%	0.53%	0.34%		0.39%
回収数(C)	321	481	519		1321
回収率(C/A)	80.7%	85.1%	87.8%		85.0%
初受検割合	57.9%	52.4%	53.0%		54.4%
24歳以下割合	20.6%	20.6%	20.0%		20.4%
MSM ^{*1} 割合	7.2%	7.7%	8.1%		7.7%
性風俗利用者 ^{*2} 割合	27.7%	24.7%	30.6%		27.7%
性風俗従事者 ^{*3} 割合	5.3%	4.8%	5.2%		5.1%

*該当期間に得られた回答すべてを母数として割合を算出した。

*1 Men who have sex with men;生涯に男性との性交経験を有する男性

*2 過去6ヶ月間にお金を払った性交経験を有する人

*3 過去6ヶ月間にお金をもらった性交経験を有する人

表 3b. HIV 抗体検査受検者の受検経験別性別および性的指向別の基本集計(1) (千葉県)
-2012年5月～9月に受検したものを対象とした分析結果-

	初受検者										再受検者										MSMにおける 受検経験別 Pearson χ^2 p値
	性別および性的指向								合計 n=404	Pearson χ^2 p値	性別および性的指向								合計 n=286	Pearson χ^2 p値	
	MSM以外の男性 n=242		女性 n=143		MSM n=19						MSM以外の男性 n=164		女性 n=91		MSM n=31						
居住地																					
	千葉県	221	91.3%	131	91.6%	18	94.7%	370	91.6%	0.88	154	93.9%	87	95.6%	28	90.3%	269	94.1%	0.56	0.58	
	千葉県以外	21	8.7%	12	8.4%	1	5.3%	34	8.4%		10	6.1%	4	4.4%	3	9.7%	17	5.9%			
年齢																					
	19歳以下	8	3.3%	12	8.4%	3	15.8%	23	5.7%	<0.01	0	0.0%	1	1.1%	1	3.2%	2	0.7%	<0.01	0.47	
	20-29歳	91	37.6%	76	53.1%	9	47.4%	176	43.6%		39	23.8%	39	42.9%	12	38.7%	90	31.5%			
	30-39歳	77	31.8%	35	24.5%	5	26.3%	117	29.0%		69	42.1%	40	44.0%	9	29.0%	118	41.3%			
	40-49歳	30	12.4%	16	11.2%	1	5.3%	47	11.6%		28	17.1%	10	11.0%	4	12.9%	42	14.7%			
	50-59歳	19	7.9%	4	2.8%	0	0.0%	23	5.7%		17	10.4%	1	1.1%	1	3.2%	19	6.6%			
	60歳以上	17	7.0%	0	0.0%	1	5.3%	18	4.5%		11	6.7%	0	0.0%	4	12.9%	15	5.2%			
居住形態																					
	同居	168	69.4%	115	80.4%	11	57.9%	294	72.8%	0.02	127	77.4%	76	83.5%	18	58.1%	221	77.3%	0.01	0.99	
	独居	74	30.6%	28	19.6%	8	42.1%	110	27.2%		37	22.6%	15	16.5%	13	41.9%	65	22.7%			
婚姻状況																					
	未婚	145	59.9%	117	81.8%	18	94.7%	280	69.3%	<0.01	103	62.8%	62	68.1%	25	80.6%	190	66.4%	0.14	0.16	
	既婚	97	40.1%	26	18.2%	1	5.3%	124	30.7%		61	37.2%	29	31.9%	6	19.4%	96	33.6%			
健康保険加入状況																					
	国民健康保険/職場の健康保険	225	93.0%	110	76.9%	16	84.2%	351	86.9%	<0.01	158	96.3%	66	72.5%	28	90.3%	252	88.1%	<0.01	0.49	
	被扶養者の健康保険	11	4.5%	27	18.9%	2	10.5%	40	9.9%		4	2.4%	23	25.3%	3	9.7%	30	10.5%			
	未加入/無回答	6	2.5%	6	4.2%	1	5.3%	13	3.2%		2	1.2%	2	2.2%	0	0.0%	4	1.4%			
生涯の性交経験																					
	ない	8	3.3%	3	2.1%	0	0.0%	11	2.7%	0.59	4	2.4%	2	2.2%	0	0.0%	6	2.1%	0.68	-	
	ある	234	96.7%	140	97.9%	19	100.0%	393	97.3%		160	97.6%	89	97.8%	31	100.0%	280	97.9%			
過去6ヶ月間の露性交または肛門性交経験																					
	ない	111	45.9%	72	50.3%	4	21.1%	187	46.3%	0.05	68	41.5%	34	37.4%	6	19.4%	108	37.8%	0.07	0.88	
	ある	131	54.1%	71	49.7%	15	78.9%	217	53.7%		96	58.5%	57	62.6%	25	80.6%	178	62.2%			
過去6ヶ月間に相手にお金を払ってセックスをしたことがありますか？																					
	ない(無回答含む)	141	58.3%	143	100.0%	16	84.2%	300	74.3%	<0.01	85	51.8%	91	100.0%	26	83.9%	202	70.6%	<0.01	0.98	
	ある	101	41.7%	0	0.0%	3	15.8%	104	25.7%		79	48.2%	0	0.0%	5	16.1%	84	29.4%			
過去6ヶ月間に相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか？																					
	ない(無回答含む)	242	100.0%	128	89.5%	16	84.2%	386	95.5%	<0.01	161	98.2%	82	90.1%	27	87.1%	270	94.4%	<0.01	0.78	
	ある	0	0.0%	15	10.5%	3	15.8%	18	4.5%		3	1.8%	9	9.9%	4	12.9%	16	5.6%			
男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況																					
	過去6ヶ月間に行わない	242	100.0%	74	51.7%	4	21.1%	320	79.2%	<0.01	164	100.0%	35	38.5%	6	19.4%	205	71.7%	<0.01	0.98	
	常用	0	0.0%	16	11.2%	2	10.5%	18	4.5%		0	0.0%	13	14.3%	3	9.7%	16	5.6%			
	非常用	0	0.0%	53	37.1%	13	68.4%	66	16.3%		0	0.0%	43	47.3%	22	71.0%	65	22.7%			
女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況																					
	過去6ヶ月間に行わない	113	46.7%	143	100.0%	10	52.6%	266	65.8%	<0.01	70	42.7%	91	100.0%	19	61.3%	180	62.9%	<0.01	0.53	
	常用	30	12.4%	0	0.0%	4	21.1%	34	8.4%		24	14.6%	0	0.0%	3	9.7%	27	9.4%			
	非常用	99	40.9%	0	0.0%	5	26.3%	104	25.7%		70	42.7%	0	0.0%	9	29.0%	79	27.6%			

*HIV抗体検査受検者のうち、属性に関して無回答であった者を除き、アンケートに初めて回答した者を分析対象とした。

表 3c. HIV 抗体検査受検者の受検経験別性別および性的指向別の基本集計(2) (千葉県)
-2012年5月～9月に受検したものを対象とした分析結果-

	初受検者									再受検者									MSMにおける			
	性別および性的指向						合計			Pearson χ^2 p値	性別および性的指向						合計			Pearson χ^2 p値	受検経験別 Pearson χ^2 p値	
	MSM以外の男性 n=242		女性 n=143		MSM n=19		n=404		MSM以外の男性 n=164		女性 n=91		MSM n=31		n=286							
居住地																						
	千葉県	221	91.3%	131	91.6%	18	94.7%	370	91.6%	0.88	154	93.9%	87	95.6%	28	90.3%	269	94.1%	0.56			0.58
	千葉県以外	21	8.7%	12	8.4%	1	5.3%	34	8.4%		10	6.1%	4	4.4%	3	9.7%	17	5.9%				
周囲のHIV感染者の有無																						
	わからない(無回答含む)	59	24.4%	32	22.4%	3	15.8%	94	23.3%	<0.01	36	22.0%	20	22.0%	4	12.9%	60	21.0%	0.06			0.84
	いない/いないと思う	158	65.3%	93	65.0%	7	36.8%	258	63.9%		96	58.5%	55	60.4%	14	45.2%	165	57.7%				
	いる/いると思う	25	10.3%	18	12.6%	9	47.4%	52	12.9%		32	19.5%	16	17.6%	13	41.9%	61	21.3%				
「自分がHIVに感染していても今のまま働くことができる」と思いますか？																						
	あまりそう思わない/そう思わない	106	43.8%	71	49.7%	8	42.1%	185	45.8%	0.51	73	44.5%	52	57.1%	13	41.9%	138	48.3%	0.12			0.99
	そう思う/ややそう思う	136	56.2%	72	50.3%	11	57.9%	219	54.2%		91	55.5%	39	42.9%	18	58.1%	148	51.7%				
「自分はHIVに感染しても恋愛や結婚はできる」と思いますか？																						
	あまりそう思わない/そう思わない	208	86.0%	123	86.0%	17	89.5%	348	86.1%	0.91	136	82.9%	79	86.8%	23	74.2%	238	83.2%	0.26			0.19
	そう思う/ややそう思う	34	14.0%	20	14.0%	2	10.5%	56	13.9%		28	17.1%	12	13.2%	8	25.8%	48	16.8%				
過去6ヶ月間に“HIVに感染しているかも…”と不安に感じたことはありましたか？																						
	あまりなかった/全くなかった	167	69.0%	97	67.8%	9	47.4%	273	67.6%	0.15	83	50.6%	44	48.4%	14	45.2%	141	49.3%	0.84			0.88
	よくあった/時々あった	75	31.0%	46	32.2%	10	52.6%	131	32.4%		81	49.4%	47	51.6%	17	54.8%	145	50.7%				
HIVに関する相談相手や場所の認知																						
	全く知らない(無回答含む)	106	43.8%	56	39.2%	6	31.6%	168	41.6%	0.45	63	38.4%	29	31.9%	12	38.7%	104	36.4%	0.56			0.61
	知っている	136	56.2%	87	60.8%	13	68.4%	236	58.4%		101	61.6%	62	68.1%	19	61.3%	182	63.6%				
受検動機(勧奨の有無)																						
	人から勧められた、または誘われた	37	15.3%	35	24.5%	2	10.5%	74	18.3%	0.05	12	7.3%	7	7.7%	1	3.2%	20	7.0%	0.68			0.29
	自分で受けようと思った	205	84.7%	108	75.5%	17	89.5%	330	81.7%		152	92.7%	84	92.3%	30	96.8%	266	93.0%				
同伴者の有無																						
	1人で来た	207	85.5%	105	73.4%	19	100.0%	331	81.9%	<0.01	152	92.7%	70	76.9%	31	100.0%	253	88.5%	<0.01			-
	友達・その他・無回答	7	2.9%	13	9.1%	0	0.0%	20	5.0%		4	2.4%	2	2.2%	0	0.0%	6	2.1%				
	家族・恋人	28	11.6%	25	17.5%	0	0.0%	53	13.1%		8	4.9%	19	20.9%	0	0.0%	27	9.4%				
広報資料認知																						
	いずれも認知なし	85	35.1%	64	44.8%	2	10.5%	151	37.4%	0.01	55	33.5%	31	34.1%	6	19.4%	92	32.2%	0.27			0.41
	いずれか認知あり	157	64.9%	79	55.2%	17	89.5%	253	62.6%		109	66.5%	60	65.9%	25	80.6%	194	67.8%				
広報資料認知(複数回答)																						
	各行政の紙資料・ポスター・広報誌等	10	4.1%	4	2.8%	0	0.0%	14	3.5%	0.55	12	7.3%	5	5.5%	1	3.2%	18	6.3%	0.64			0.43
	各行政のホームページ	124	51.2%	61	42.7%	8	42.1%	193	47.8%	0.23	76	46.3%	42	46.2%	21	67.7%	139	48.6%	0.08			0.08
	NGO資料	2	0.8%	0	0.0%	3	15.8%	5	1.2%	<0.01	0	0.0%	1	1.1%	4	12.9%	5	1.7%	<0.01			0.78
	HIVマップ	6	2.5%	4	2.8%	4	21.1%	14	3.5%	<0.01	7	4.3%	10	11.0%	5	16.1%	22	7.7%	0.03			0.66
	HIV検査・相談マップ	41	16.9%	29	20.3%	9	47.4%	79	19.6%	0.01	43	26.2%	24	26.4%	12	38.7%	79	27.6%	0.34			0.55
	AC広告(エイズ予防財団)	11	4.5%	10	7.0%	3	15.8%	24	5.9%	0.11	4	2.4%	8	8.8%	2	6.5%	14	4.9%	0.07			0.29

*HIV抗体検査受検者のうち、属性に関して無回答であった者を除き、アンケートに初めて回答した者を分析対象とした。

表4a. インターネット横断調査：年齢別集計（1）

	年齢										合計 n=855	Pearson χ^2	
	24歳以下		25-29歳		30-34歳		35-39歳		40歳以上				
	n=290		n=181		n=160		n=112		n=112				
性的指向													
ゲイ(同性愛者)	229	79.0%	144	79.6%	133	83.1%	100	89.3%	95	84.8%	701	82.0%	0.26
バイ(両性愛者)	42	14.5%	30	16.6%	20	12.5%	7	6.3%	12	10.7%	111	13.0%	
その他	19	6.6%	7	3.9%	7	4.4%	5	4.5%	5	4.5%	43	5.0%	
あなたは、現在だれかと一緒に暮らしていますか？													
一人暮らし	136	46.9%	101	55.8%	104	65.0%	58	51.8%	53	47.3%	452	52.9%	<0.01
家族と同居	132	45.5%	54	29.8%	28	17.5%	33	29.5%	29	25.9%	276	32.3%	
家族以外と同居	22	7.6%	26	14.4%	28	17.5%	21	18.8%	30	26.8%	127	14.9%	
あなたは現在、結婚していますか？													
結婚している	0	0.0%	2	1.1%	5	3.1%	4	3.6%	9	8.0%	20	2.3%	<0.01
結婚していない	290	100.0%	179	98.9%	155	96.9%	108	96.4%	103	92.0%	835	97.7%	
あなたは現在、健康保険を持っていますか？													
国民健康保険	111	38.3%	56	30.9%	57	35.6%	36	32.1%	45	40.2%	305	35.7%	<0.01
職場の健康保険	65	22.4%	105	58.0%	97	60.6%	70	62.5%	59	52.7%	396	46.3%	
被扶養者の健康保険	106	36.6%	15	8.3%	3	1.9%	3	2.7%	1	0.9%	128	15.0%	
持っていない	8	2.8%	5	2.8%	3	1.9%	3	2.7%	7	6.3%	26	3.0%	
次の中で過去6カ月間に利用したものはありますか？（あてはまるものすべて）													
ゲイバー	174	60.0%	135	74.6%	126	78.8%	72	64.3%	80	71.4%	587	68.7%	<0.01
ゲイナイト	76	26.2%	67	37.0%	61	38.1%	31	27.7%	29	25.9%	264	30.9%	0.02
ゲイショップ	78	26.9%	62	34.3%	49	30.6%	50	44.6%	48	42.9%	287	33.6%	<0.01
PC出会い系サイト	73	25.2%	56	30.9%	43	26.9%	39	34.8%	40	35.7%	251	29.4%	0.14
携帯出会い系サイト	103	35.5%	69	38.1%	62	38.8%	44	39.3%	30	26.8%	308	36.0%	0.23
mixiなどのSNS	177	61.0%	100	55.2%	98	61.3%	68	60.7%	76	67.9%	519	60.7%	0.32
エロ系SNS	78	26.9%	42	23.2%	60	37.5%	30	26.8%	31	27.7%	241	28.2%	0.05
スマートフォンのゲイ向けアプリ	168	57.9%	113	62.4%	93	58.1%	67	59.8%	54	48.2%	495	57.9%	0.20
ゲイ向けサークル	48	16.6%	25	13.8%	26	16.3%	10	8.9%	20	17.9%	129	15.1%	0.30
ゲイ向け合コン	15	5.2%	13	7.2%	3	1.9%	4	3.6%	3	2.7%	38	4.4%	0.13
ゲイの乱パ	7	2.4%	8	4.4%	6	3.8%	4	3.6%	4	3.6%	29	3.4%	0.82
有料のハッテン場	43	14.8%	40	22.1%	41	25.6%	39	34.8%	38	33.9%	201	23.5%	<0.01
野外のハッテン場	7	2.4%	8	4.4%	16	10.0%	8	7.1%	11	9.8%	50	5.8%	<0.01
ハッテン場で有名な公共施設	23	7.9%	27	14.9%	29	18.1%	25	22.3%	28	25.0%	132	15.4%	<0.01
いずれも利用なし	19	6.6%	6	3.3%	0	0.0%	2	1.8%	3	2.7%	30	3.5%	<0.01

表4b. インターネット横断調査：年齢別集計（2）

	年齢										合計 n=855	Pearson χ^2	
	24歳以下		25-29歳		30-34歳		35-39歳		40歳以上				
	n=290		n=181		n=160		n=112		n=112				
これまでにHIV抗体検査を受けようと思ったことはありますか？													
ある	173	59.7%	147	81.2%	130	81.3%	102	91.1%	95	84.8%	647	75.7%	<0.01
ない	117	40.3%	34	18.8%	30	18.8%	10	8.9%	17	15.2%	208	24.3%	
これまでにHIV抗体検査を受けたことはありますか？													
ある	87	30.0%	100	55.2%	95	59.4%	85	75.9%	87	77.7%	454	53.1%	<0.01
ない	203	70.0%	81	44.8%	65	40.6%	27	24.1%	25	22.3%	401	46.9%	
これまでにHIV抗体検査を受けた場所はどこですか？（あてはまるものすべて）													
保健所の通常検査	48	16.6%	56	30.9%	57	35.6%	48	42.9%	47	42.0%	256	29.9%	<0.01
保健所の即日検査	40	13.8%	35	19.3%	23	14.4%	16	14.3%	11	9.8%	125	14.6%	0.24
保健所の夜間検査	5	1.7%	0	0.0%	7	4.4%	4	3.6%	5	4.5%	21	2.5%	0.04
医療センターなどの病院	7	2.4%	10	5.5%	16	10.0%	14	12.5%	15	13.4%	62	7.3%	<0.01
クリニック・医院・診療所	7	2.4%	27	14.9%	26	16.3%	22	19.6%	29	25.9%	111	13.0%	<0.01
郵送検査キット	3	1.0%	3	1.7%	1	0.6%	1	0.9%	2	1.8%	10	1.2%	0.87
その他	10	3.4%	8	4.4%	13	8.1%	8	7.1%	14	12.5%	53	6.2%	0.01
過去1年間にHIV抗体検査を受けたことはありますか？													
ある	61	21.0%	60	33.1%	52	32.5%	39	34.8%	30	26.8%	242	28.3%	<0.01
ない	17	5.9%	31	17.1%	31	19.4%	42	37.5%	43	38.4%	164	19.2%	
1年以上前に陽性を確認	9	3.1%	9	5.0%	10	6.3%	4	3.6%	13	11.6%	45	5.3%	
答えたくない	0	0.0%	0	0.0%	2	1.3%	0	0.0%	1	0.9%	3	0.4%	
生涯なし	203	70.0%	81	44.8%	65	40.6%	27	24.1%	25	22.3%	401	46.9%	
過去1年間にHIV抗体検査を受けた場所はどこですか？（あてはまるものすべて）													
保健所の通常検査	33	11.4%	27	14.9%	27	16.9%	22	19.6%	12	10.7%	121	14.2%	0.15
保健所の即日検査	24	8.3%	21	11.6%	12	7.5%	8	7.1%	6	5.4%	71	8.3%	0.38
保健所の夜間検査	5	1.7%	0	0.0%	3	1.9%	1	0.9%	0	0.0%	9	1.1%	0.25
医療センターなどの病院	3	1.0%	4	2.2%	3	1.9%	4	3.6%	3	2.7%	17	2.0%	0.54
クリニック・医院・診療所	4	1.4%	10	5.5%	10	6.3%	9	8.0%	6	5.4%	39	4.6%	0.02
郵送検査キット	1	0.3%	2	1.1%	1	0.6%	0	0.0%	1	0.9%	5	0.6%	0.74
その他	3	1.0%	4	2.2%	6	3.8%	6	5.4%	2	1.8%	21	2.5%	0.10
あなたの友達や知り合いにHIVに感染している人はいると思いますか？													
いる	45	15.5%	40	22.1%	72	45.0%	61	54.5%	67	59.8%	285	33.3%	<0.01
いると思う	68	23.4%	60	33.1%	47	29.4%	23	20.5%	19	17.0%	217	25.4%	
いないと思う	64	22.1%	31	17.1%	13	8.1%	5	4.5%	12	10.7%	125	14.6%	
いない	12	4.1%	7	3.9%	7	4.4%	5	4.5%	1	0.9%	32	3.7%	
わからない	101	34.8%	43	23.8%	21	13.1%	18	16.1%	13	11.6%	196	22.9%	

表4c. インターネット横断調査：年齢別集計（3）

	年齢										合計 n=855	Pearson χ^2	
	24歳以下		25-29歳		30-34歳		35-39歳		40歳以上				
	n=290		n=181		n=160		n=112		n=112				
過去6カ月間に彼氏や恋人とHIVやエイズについて話したことがありますか？													
ある	65	22.4%	65	35.9%	59	36.9%	37	33.0%	43	38.4%	269	31.5%	0.01
ない	118	40.7%	65	35.9%	57	35.6%	38	33.9%	41	36.6%	319	37.3%	
彼氏・恋人がいなかった	107	36.9%	51	28.2%	44	27.5%	37	33.0%	28	25.0%	267	31.2%	
過去6カ月間に友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがありますか？													
ある	149	51.4%	113	62.4%	97	60.6%	65	58.0%	77	68.8%	501	58.6%	0.01
ない	141	48.6%	68	37.6%	63	39.4%	47	42.0%	35	31.3%	354	41.4%	
次の中で、これまでににかかったことがある性感染症はありますか？（あてはまるものすべて）													
梅毒	3	1.0%	14	7.7%	17	10.6%	17	15.2%	19	17.0%	70	8.2%	<0.01
A型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.7%	9	8.0%	12	1.4%	<0.01
B型肝炎	1	0.3%	10	5.5%	14	8.8%	11	9.8%	23	20.5%	59	6.9%	<0.01
C型肝炎	0	0.0%	1	0.6%	2	1.3%	2	1.8%	3	2.7%	8	0.9%	0.10
クラミジア	10	3.4%	11	6.1%	19	11.9%	18	16.1%	10	8.9%	68	8.0%	<0.01
尖圭コンジローマ	3	1.0%	12	6.6%	12	7.5%	14	12.5%	7	6.3%	48	5.6%	<0.01
淋病	2	0.7%	6	3.3%	6	3.8%	14	12.5%	11	9.8%	39	4.6%	<0.01
HIV感染症	9	3.1%	9	5.0%	15	9.4%	12	10.7%	15	13.4%	60	7.0%	<0.01
赤痢アメーバ	0	0.0%	2	1.1%	1	0.6%	3	2.7%	3	2.7%	9	1.1%	0.06
毛じらみ	23	7.9%	45	24.9%	50	31.3%	51	45.5%	50	44.6%	219	25.6%	<0.01
性器ヘルペス	2	0.7%	4	2.2%	2	1.3%	6	5.4%	5	4.5%	19	2.2%	0.02
その他	2	0.7%	4	2.2%	5	3.1%	3	2.7%	4	3.6%	18	2.1%	0.29
いずれもなし	251	86.6%	110	60.8%	87	54.4%	34	30.4%	38	33.9%	520	60.8%	<0.01
これまでに男性とセックスをしたことがありますか？													
ある	244	84.1%	170	93.9%	155	96.9%	107	95.5%	108	96.4%	784	91.7%	<0.01
ない	46	15.9%	11	6.1%	5	3.1%	5	4.5%	4	3.6%	71	8.3%	
過去6カ月間に、コンドームを買ったことがありますか？													
ある	99	34.1%	82	45.3%	70	43.8%	46	41.1%	38	33.9%	335	39.2%	0.07
ない	191	65.9%	99	54.7%	90	56.3%	66	58.9%	74	66.1%	520	60.8%	
過去6カ月間に、コンドームをすぐに使えるようにいつも身近に持っていましたか？													
いつも持っていた	70	24.1%	61	33.7%	55	34.4%	43	38.4%	50	44.6%	279	32.6%	<0.01
時々持っていた	64	22.1%	57	31.5%	48	30.0%	21	18.8%	31	27.7%	221	25.8%	
持っていなかった	156	53.8%	63	34.8%	57	35.6%	48	42.9%	31	27.7%	355	41.5%	
過去6ヶ月間に、口内射精をしたことがありますか？または、口内射精をされたことはありますか？													
口内射精したことがある	61	21.0%	38	21.0%	31	19.4%	29	25.9%	14	12.5%	173	20.2%	<0.01
口内射精されたことがある	39	13.4%	27	14.9%	17	10.6%	6	5.4%	10	8.9%	99	11.6%	
どちらもある	79	27.2%	51	28.2%	52	32.5%	13	11.6%	14	12.5%	209	24.4%	
どちらもない	111	38.3%	65	35.9%	60	37.5%	64	57.1%	74	66.1%	374	43.7%	
過去6ヶ月間の薬物併用経験													
いずれもなし	265	91.4%	146	80.7%	131	81.9%	82	73.2%	76	67.9%	700	81.9%	<0.01
バイアグラのみ	3	1.0%	8	4.4%	9	5.6%	10	8.9%	13	11.6%	43	5.0%	
併用経験あり	22	7.6%	27	14.9%	20	12.5%	20	17.9%	23	20.5%	112	13.1%	
これまでに男性とアナルセックスをしたことがありますか？													
ある	191	65.9%	151	83.4%	137	85.6%	97	86.6%	96	85.7%	672	78.6%	<0.01
ない	99	34.1%	30	16.6%	23	14.4%	15	13.4%	16	14.3%	183	21.4%	

表4d. インターネット横断調査：年齢別集計（4）

	年齢										合計	Pearson χ^2		
	24歳以下		25-29歳		30-34歳		35-39歳		40歳以上					
	191	100.0%	151	100.0%	137	100.0%	97	100.0%	96	100.0%	672	100.0%		
一番最近にアナルセックスをしたのはいつですか？														
現在から過去6カ月間の間	160	83.8%	114	75.5%	98	71.5%	73	75.3%	60	62.5%	505	75.1%	0.01	
過去6カ月間から過去1年間の間	9	4.7%	9	6.0%	11	8.0%	4	4.1%	5	5.2%	38	5.7%		
1年以上前	19	9.9%	25	16.6%	28	20.4%	18	18.6%	30	31.3%	120	17.9%		
覚えていない	3	1.6%	3	2.0%	0	0.0%	2	2.1%	1	1.0%	9	1.3%		
一番最近にアナルセックスをした相手はどれにあてはまりますか？														
彼氏や恋人	91	47.6%	56	37.1%	53	38.7%	22	22.7%	29	30.2%	251	37.4%	0.01	
友達やセクフレ	62	32.5%	48	31.8%	46	33.6%	41	42.3%	33	34.4%	230	34.2%		
その場限りの相手	37	19.4%	47	31.1%	38	27.7%	33	34.0%	34	35.4%	189	28.1%		
その他	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	2	0.3%		
そのときの相手とアナルセックスをしたときに、コンドームを使いましたか？														
使用	129	67.5%	106	70.2%	101	73.7%	62	63.9%	63	65.6%	461	68.6%	0.83	
不使用	55	28.8%	40	26.5%	33	24.1%	31	32.0%	31	32.3%	190	28.3%		
覚えていない	7	3.7%	5	3.3%	3	2.2%	4	4.1%	2	2.1%	21	3.1%		
そのときコンドームやローションは手の届く所にありましたか？														
両方あった	142	74.3%	113	74.8%	114	83.2%	67	69.1%	66	68.8%	502	74.7%	0.08	
コンドームだけあった	5	2.6%	3	2.0%	6	4.4%	2	2.1%	6	6.3%	22	3.3%		
ローションだけあった	29	15.2%	27	17.9%	12	8.8%	17	17.5%	15	15.6%	100	14.9%		
両方なかった	8	4.2%	4	2.6%	0	0.0%	5	5.2%	7	7.3%	24	3.6%		
わからない/覚えていない	7	3.7%	4	2.6%	5	3.6%	6	6.2%	2	2.1%	24	3.6%		
そのときの相手と、初めて知り合ったのはどこですか？														
ゲイバー	23	12.0%	22	14.6%	19	13.9%	14	14.4%	14	14.6%	92	13.7%	<0.01	
ゲイナイト	3	1.6%	3	2.0%	2	1.5%	1	1.0%	1	1.0%	10	1.5%		
ゲイショップ	0	0.0%	3	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.4%		
PC出会い系	11	5.8%	12	7.9%	9	6.6%	11	11.3%	10	10.4%	53	7.9%		
携帯出会い系	18	9.4%	18	11.9%	17	12.4%	11	11.3%	7	7.3%	71	10.6%		
mixiなどのSNS	39	20.4%	19	12.6%	14	10.2%	10	10.3%	6	6.3%	88	13.1%		
エロ系SNS	4	2.1%	5	3.3%	4	2.9%	4	4.1%	4	4.2%	21	3.1%		
スマートフォンのゲイ向けアプリ	47	24.6%	36	23.8%	32	23.4%	12	12.4%	14	14.6%	141	21.0%		
ゲイ向けサークル	12	6.3%	7	4.6%	6	4.4%	4	4.1%	6	6.3%	35	5.2%		
ゲイ向け合コン	3	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	4	0.6%		
ゲイの乱バ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.1%	2	0.3%		
有料ハッテン場	12	6.3%	18	11.9%	22	16.1%	25	25.8%	25	26.0%	102	15.2%		
野外ハッテン場	2	1.0%	0	0.0%	2	1.5%	1	1.0%	3	3.1%	8	1.2%		
ハッテン場で有名な公共施設	2	1.0%	4	2.6%	1	0.7%	2	2.1%	1	1.0%	10	1.5%		
その他・覚えていない	15	7.9%	4	2.6%	9	6.6%	2	2.1%	2	2.1%	32	4.8%		
そのときセックスする前にコンドームについてどのように思っていましたか？														
使いたいと思っていた	131	68.6%	105	69.5%	93	67.9%	59	60.8%	59	61.5%	447	66.5%	0.04	
使いたいと思っていなかった	14	7.3%	5	3.3%	11	8.0%	14	14.4%	13	13.5%	57	8.5%		
相手に合わせようと思っていた	35	18.3%	31	20.5%	27	19.7%	21	21.6%	24	25.0%	138	20.5%		
わからない/覚えていない	11	5.8%	10	6.6%	6	4.4%	3	3.1%	0	0.0%	30	4.5%		
過去6ヶ月間のアナルセックス経験														
過去6ヶ月間あり	160	83.8%	114	75.5%	98	71.5%	73	75.3%	60	62.5%	505	75.1%	<0.01	
過去6ヶ月間なし	31	16.2%	37	24.5%	39	28.5%	24	24.7%	36	37.5%	167	24.9%		
過去6ヶ月間に次のような関係の男性とアナルセックスをしましたか？（あてはまるものすべて）														
彼氏や恋人	97	50.8%	56	37.1%	41	29.9%	23	23.7%	19	19.8%	236	35.1%	<0.01	
友達やセクフレ	70	36.6%	61	40.4%	56	40.9%	34	35.1%	29	30.2%	250	37.2%		0.45
その場限りの相手	51	26.7%	45	29.8%	47	34.3%	37	38.1%	33	34.4%	213	31.7%		0.28

表4e. インターネット横断調査：年齢別集計（5）

	年齢										合計	Pearson χ^2	
	24歳以下		25-29歳		30-34歳		35-39歳		40歳以上				
	160	100.0%	114	100.0%	98	100.0%	73	100.0%	60	100.0%			
過去6ヶ月間のアナルセックス相手との関係													
特定相手のみ	91	56.9%	59	51.8%	47	48.0%	34	46.6%	26	43.3%	257	50.9%	0.02
特定/不特定両方	48	30.0%	38	33.3%	37	37.8%	17	23.3%	17	28.3%	157	31.1%	
不特定相手(その場限り)のみ	21	13.1%	17	14.9%	14	14.3%	22	30.1%	17	28.3%	91	18.0%	
過去6ヶ月間のポジション													
挿入のみ（タチのみ）	13	8.1%	16	14.0%	25	25.5%	24	32.9%	19	31.7%	97	19.2%	<0.01
被挿入のみ（ウケのみ）	53	33.1%	20	17.5%	19	19.4%	13	17.8%	12	20.0%	117	23.2%	
両方（タチ・ウケ）	94	58.8%	78	68.4%	54	55.1%	36	49.3%	29	48.3%	291	57.6%	
コンドーム使用状況													
非常用	93	58.1%	72	63.2%	54	55.1%	40	54.8%	32	53.3%	291	57.6%	0.66
常用	67	41.9%	42	36.8%	44	44.9%	33	45.2%	28	46.7%	214	42.4%	
	年齢										合計	Pearson χ^2	
	24歳以下		25-29歳		30-34歳		35-39歳		40歳以上				
彼氏や恋人などの相手とのコンドーム使用状況													
非常用	54	55.7%	34	60.7%	22	53.7%	12	52.2%	11	57.9%	133	56.4%	0.94
常用	43	44.3%	22	39.3%	19	46.3%	11	47.8%	8	42.1%	103	43.6%	
合計	97	100.0%	56	100.0%	41	100.0%	23	100.0%	19	100.0%	236	100.0%	
友達やセフレなど恋人ではない特定の相手とのコンドーム使用状況													
非常用	36	51.4%	35	57.4%	32	57.1%	19	55.9%	12	41.4%	134	53.6%	0.63
常用	34	48.6%	26	42.6%	24	42.9%	15	44.1%	17	58.6%	116	46.4%	
合計	70	100.0%	61	100.0%	56	100.0%	34	100.0%	29	100.0%	250	100.0%	
その場限りの相手とのコンドーム使用状況													
非常用	26	51.0%	26	57.8%	22	46.8%	22	59.5%	15	45.5%	111	52.1%	0.64
常用	25	49.0%	19	42.2%	25	53.2%	15	40.5%	18	54.5%	102	47.9%	
合計	51	100.0%	45	100.0%	47	100.0%	37	100.0%	33	100.0%	213	100.0%	
	年齢										合計	Pearson χ^2	
	24歳以下		25-29歳		30-34歳		35-39歳		40歳以上				
	n=290		n=181		n=160		n=112		n=112				
新宿2丁目にあるコミュニティセンターakta(アクタ)に行ったことがありますか？													
行ったことがある	78	26.9%	63	34.8%	45	28.1%	27	24.1%	54	48.2%	267	31.2%	<0.01
知っているが行ったことない	50	17.2%	47	26.0%	60	37.5%	46	41.1%	30	26.8%	233	27.3%	
知らない	162	55.9%	71	39.2%	55	34.4%	39	34.8%	28	25.0%	355	41.5%	
フリーペーパーakta monthly paperを読んだことがありますか？													
読んだことがある	73	25.2%	66	36.5%	70	43.8%	57	50.9%	67	59.8%	333	38.9%	<0.01
知っているが読んだことない	32	11.0%	33	18.2%	26	16.3%	12	10.7%	12	10.7%	115	13.5%	
知らない	185	63.8%	82	45.3%	64	40.0%	43	38.4%	33	29.5%	407	47.6%	
あなたはヤローページを読んだことがありますか？													
過去1年間に持ち帰った	52	17.9%	40	22.1%	46	28.8%	37	33.0%	36	32.1%	211	24.7%	<0.01
1年以上前に持ち帰った	49	16.9%	39	21.5%	39	24.4%	12	10.7%	26	23.2%	165	19.3%	
知っているが持ち帰ったことない	189	65.2%	102	56.4%	75	46.9%	63	56.3%	50	44.6%	479	56.0%	
あなたはH I Vマップを見たことがありますか？													
見た	81	27.9%	75	41.4%	63	39.4%	64	57.1%	59	52.7%	342	40.0%	<0.01
見ていない	209	72.1%	106	58.6%	97	60.6%	48	42.9%	53	47.3%	513	60.0%	